

「町田市生涯学習推進計画 2019-2023」に係る 2023 年度事業実績の報告について

生涯学習部では、2019年3月に「町田市教育プラン2019-2023」で定める生涯学習施策を具現化するためのアクションプラン（行動計画）として、「町田市生涯学習推進計画2019-2023」を策定しました。生涯学習推進計画に定めた取組を着実に推進するため、年度ごとに達成状況を確認することとしていましたが、この度2023年度の事業実績がまとまりましたので、報告いたします。

- 1 取組項目 39 件（うち 15 件は、「町田市教育プラン 2019-2023」に掲げる重点事業）
- 2 評価方法 5 段階評価（下表参照）
各取組項目の活動指標ごとに、下記の達成状況の基準によって評価しており、「2024 年度町田市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（2023 年度分）」に準じています。

評価		達成状況の基準、考え方
A	計画以上に目標を達成した	効果的で優れた取組を行い、年度目標を上回って達成し、最終年度の目標達成に向けて大きな成果があった。
B	目標を達成した	効果的な取組を行い、年度目標を達成し、最終年度の目標達成に向けて成果があった。
C	おおむね目標を達成した	年度目標には達しなかったものの、効果的な取組を行い、最終年度の目標達成に向けて一定の成果があった。
D	目標に達しなかった	取組を行い、一定の成果はあったものの、年度目標を達成することができず、最終年度の目標達成に向けて課題や問題点があった。
E	目標を大きく下回った、実施できなかった	取組を行わなかった、または行ったものの成果があがらなかった。 大きな課題や問題点があり、取り組むことが困難で滞っている。

3 意見聴取

報告にあたり、次の附属機関等から意見を伺い、内容確認を行いました。

- ・町田市生涯学習審議会
- ・町田市文化財保護審議会
- ・町田市生涯学習センター運営協議会
- ・町田市民文学館運営協議会
- ・町田市立図書館協議会

4 市民への公表

町田市ホームページに掲載します。

町田市生涯学習推進計画 2019 - 2023

事業実績（2023 年度分）報告

2024年8月

町田市教育委員会

目 次

1	事業実績の報告について	3
2	達成状況の評価基準	3
3	評価の対象となる取組.....	4
4	2023 年度に実施した取組の事業実績	
	施策 1 家庭教育を支える環境を整備する	
	取組 1-1～1-4 の事業実績.....	5
	施策 2 学びのきっかけとなる機会を提供する	
	取組 2-1～2-10 の事業実績.....	9
	施策 3 学習を“広げる・深める”を支援する	
	取組 3-1～3-8 の事業実績.....	19
	施策 4 学習成果を活かす機会を充実する	
	取組 4-1～4-8 の事業実績.....	27
	施策 5 学習を支える環境づくりを進める	
	取組 5-1～5-9 の事業実績.....	35
5	2019～2023 年度の総括.....	44

1 事業実績の報告について

町田市教育委員会では、2019年3月に「町田市教育プラン（以下、「教育プラン」という。）2019-2023」で定める生涯学習施策を具現化するためのアクションプラン（行動計画）として、「町田市生涯学習推進計画（以下、「生涯学習推進計画」という。）2019-2023」を策定しました。「生涯学習推進計画 2019-2023」は、教育プランで定めた「重点事業」を中心に39の取組を定めています。

町田市教育委員会では、本計画に定めた取組を着実に推進するため、達成状況を年度ごとに確認し、事業実績を毎年度公表します。

2 達成状況の評価基準

各取組の評価は、活動指標ごとに、下記の達成状況の基準により行っています。

評価		達成状況の基準、考え方
A	計画以上に目標を達成した	効果的で優れた取組を行い、年度目標を上回って達成し、最終年度の目標達成に向けて大きな成果があった。
B	目標を達成した	効果的な取組を行い、年度目標を達成し、最終年度の目標達成に向けて成果があった。
C	おおむね目標を達成した	年度目標には達しなかったものの、効果的な取組を行い、最終年度の目標達成に向けて一定の成果があった。
D	目標に達しなかった	取組を行い、一定の成果はあったものの、年度目標を達成することができず、最終年度の目標達成に向けて課題や問題点があった。
E	目標を大きく下回った、実施できなかった	取組を行わなかった、または行ったものの成果があがらなかった。 大きな課題や問題点があり、取り組むことが困難で滞っている。

【注】新型コロナウイルス感染症による影響について

2023年度は計画最終年にあたるため、2019～2023年度の総括を行っています。計画期間中に新型コロナウイルス感染症の流行があり、推進計画の取組の中にも影響を受けた取組が多くあります。特に2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により様々な事業を中止・延期をするという判断を余儀なくされたことから、評価基準に「F 評価することが難しい」を設けています。

3 評価の対象となる取組

施策1 家庭教育を支える環境を整備する		
取組	1-1	保護者向けの学習機会の充実【◇】
	1-2	家庭教育支援の担い手育成・活動支援【◇】
	1-3	保育室を利用した家庭教育支援事業の促進
	1-4	親子でことばに触れる機会の充実
施策2 学びのきっかけとなる機会を提供する		
取組	2-1	学習情報の発信力の強化【◇】
	2-2	歴史・文化資源等を活用した出張事業の推進【◇】
	2-3	子ども読書活動の推進【◇】
	2-4	学校図書館との連携強化【◇】
	2-5	生涯学習施設の利用促進
	2-6	読書普及事業の充実
	2-7	シニア世代向け事業の充実
	2-8	障がい者サービスの充実
	2-9	図書館資料による情報提供機会の充実
	2-10	「町田ゆかりの作家」紹介事業の充実
施策3 学習を“広げる・深める”を支援する		
取組	3-1	地域の課題解決に向けた学習支援【◇】
	3-2	町田の歴史情報の提供【◇】
	3-3	「文学の扉」事業の推進【◇】
	3-4	文化財の維持・保護・復旧の推進
	3-5	文化財の公開・活用の充実
	3-6	展示事業の充実
	3-7	講座・講演会事業の充実
	3-8	レファレンスサービスの充実
施策4 学習成果を活かす機会を充実する		
取組	4-1	市民提案型事業の推進【◇】
	4-2	協働による研究・発表の推進【◇】
	4-3	地域で活動するボランティアの養成・支援【◇】
	4-4	学習成果の発表機会の支援
	4-5	生涯学習ボランティアバンク事業の推進
	4-6	障がい者の学習成果を発表する場の充実
	4-7	図書館運営の地域協働化の促進
	4-8	市民の文学活動への支援
施策5 学習を支える環境づくりを進める		
取組	5-1	支援が必要な人への学習機会の提供【◇】
	5-2	本と出会う場所の創出【◇】
	5-3	文化財の保存と活用環境の整備【◇】
	5-4	歴史・文化資源の調査・研究・保存
	5-5	図書館利用者の利便性の向上
	5-6	地域資料の活用の推進
	5-7	市民のニーズに合った図書館事業の実施
	5-8	町田の文学の継承
	5-9	文学財産の保存

◇…教育プラン重点事業

4 2023年度に実施した取組の事業実績

◇・・・教育プラン重点事業

■取組1-1 保護者向けの学習機会の充実【◇】	生涯学習センター
-------------------------	----------

事業概要	保護者を対象に、子どもの年齢や成長に応じて生じる悩みや問題の解消につなげる学習機会を提供します。実施にあたっては、保護者をはじめ学校、PTAなど幅広くニーズを調査し、事業内容に反映していきます。				
これまでの取組	0歳児・1歳児とその保護者、妊婦を対象とした「まなびのひろば事業」、乳幼児期から思春期までの保護者向けの学習講座を定期的実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①まなびのひろば*延べ参加者数		698人	880人	
	②家庭教育講座延べ参加者数		459人	570人	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	保護者の学習機会の把握		アンケート等によるニーズ調査・事業内容への反映		
	各種学習事業の実施				
年度目標 （指標①）	730人	760人	800人	840人	880人
年度目標 （指標②）	480人	500人	520人	540人	570人

*まなびのひろば：生涯学習センターで実施する市内在住の0歳児・1歳児とその保護者、または妊婦を対象とした子育てに関するひろば事業。手遊びやスキンシップ遊び、絵本の読み聞かせ、保護者同士の情報交換などを行う。

＜2023年度の事業実績＞

達成状況（指標①）	D 目標に達しなかった
取組状況（指標①）	- 生涯学習センター運営見直し実行計画に基づき、事業の見直しを行ったことから、延べ参加者数（保護者）は204人と目標を達成しませんでした。 - まなびのひろばとして、母親と子が参加する「きしゃポップ」、父親と子が参加する「パパと一緒にきしゃポップ」、家庭教育支援の担い手育成事業の修了者が企画・運営する「スマイルきしゃポップ」を合計36回実施しました。
達成状況（指標②）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標②）	- 家庭教育講座の延べ参加者数は480人となりました。 - 家庭教育講座では、乳幼児から思春期までの保護者向け講座を合計28回実施しました。思春期の保護者向け講座は、中学校PTA連合会の協力を得て、メール配信などの協力をいただいたことで、2022年度より19人多い46人が受講しました。 - 当初予定していなかった家庭教育のオンライン講座（「不登校の理解と支援」）を新たに実施しました。配信期間62日で視聴回数783回となり、他市等で実施した際の視聴回数（200～300回）と比較しても、非常に多い視聴回数となりました。 - 子どもたちを遊ばせながら保護者同士で話せる場の提供など、保護者自身が企画・運営したイベントを10回実施しました。思春期の保護者が興味を持っている事項を聞き取り、講座内容に反映しました。
課題	地域での学びの機会を拡充するため、地域開催していく講座の選定を行っていく必要があります。
今後の取組の方向性	2024年度は再構築した仕組みで実施し、地域開催していく講座の選定について検討します。 2025年度以降は、地域開催を実施し、必要に応じて検証・見直しを行います。

■取組1-2 家庭教育支援の担い手育成・活動支援【◇】

生涯学習センター

事業概要	まなびのひろば事業や子育て講座などの学習機会を地域で展開できるよう、担い手を育成します。実施にあたっては、関係機関と連携しながら、ニーズの把握、育成プログラムや修了後の活動拠点などの検討を進め、家庭教育支援の充実を図ります。				
これまでの取組	家庭教育支援の担い手を育成する事業として「家庭教育支援学級」を実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①担い手育成事業修了者数（累計）		31人	164人	
	②修了者が企画した学習事業数		3事業	5事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	育成プログラム及び活動支援手法の研究		担い手育成事業の実施 修了者の活動支援の実施		
	修了者が企画した学習事業（3事業）実施		修了者が企画した学習事業（4事業）実施		修了者が企画した学習事業（5事業）実施
年度目標（指標①）	31人	62人	95人	129人	164人
年度目標（指標②）	3事業	3事業	4事業	4事業	5事業

<2023年度の事業実績>

達成状況（指標①）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標①）	・担い手育成事業では、家庭教育講座修了者で構成されるゼミや、家庭教育支援の担い手育成事業を合計51回実施し、32人が新たに修了者となりました。修了者数は、2022年度までの119人とあわせて、累計151人です。 ・修了者の継続的な活動を支援するため、保育室等の活動場所の提供及び、家庭教育支援講座の聴講の受け入れを行いました。活動場所の提供は27回、講座の聴講は3人の利用がありました。
達成状況（指標②）	B 目標を達成した
取組状況（指標②）	・修了者が企画した学習事業は「スマイルパーティ～スマイルママ親子ひろば～」 「親と子のまなびのひろばスマイルきしゃポップ」 「子育てサークルエンジョイタイム」 「フィンランドの生活から学ぶ子育てメソッド」 「身近な人を支えたい方への体験型講座 なやめる人に寄りそうレシピ」 の5事業でした。 ・修了者の活動を活性化することを目的とした修了者同士の交流会を開催し、5団体12人の参加がありました。
課題	・担い手育成事業や修了者団体の支援のなかで、地域での学びの機会を拡充につながるよう、誘導する必要があります。
今後の取組の方向性	・2024年度は再構築した仕組みで実施し、地域開催していく講座の選定について検討します。 ・2025年度以降は、地域開催を実施し、必要に応じて検証・見直しを行います。

事業概要	子育て中の市民が親子向けイベントや講座により多くの参加機会を得られるよう、また自ら活動することができるよう、市民活動団体や市の各部署に働きかけを行い、生涯学習センターの保育室を活動の場とした家庭教育支援事業の促進を図ります。				
これまでの取組	保育室は、生涯学習センターが直接事業に使用するほか、ホールや学習室等で市民の学習活動がある際に補助的に利用されています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	保育室の年間施設利用回数	280回	380回		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	情報収集 周知方法の 検討	検証	検証結果に基づく周知活動の見直し		
	市民活動団体への周知・市の各部署との調整				
	290回	300回	320回	350回	380回

<2023年度の事業実績>

達成状況	D 目標に達しなかった
取組状況	・ 保育室を活動の場とした家庭教育支援事業について、まちだ子育てサイトやX（旧：Twitter）、町田市メール配信サービスによる情報発信を行いました。 ・ 家庭教育支援事業修了者の継続的な活動を支援するため、活動の場として保育室を提供しました。 ・ 中心市街地における乳幼児及びその保護者の交流機会を創出する場として活用を図るため、保育室を開放しました。保育室の年間利用回数は227回（2022年度は208回、2021年度186回、2020年度151回）、利用人数は1,991人（2022年度は2,146人、2021年度1,730人、2020年度1,382人）と2020年度以降、回復傾向にありますが、あり方見直しにより家庭教育支援事業数が減少したこともあり、目標値には達しませんでした。
課題	・ 家庭教育支援の担い手育成のため、引き続き保育室を活動場所として提供する必要があります。
今後の取組の方向性	・ 生涯学習センター運営見直し実行計画に基づいた事業となっているか、検証します。 ・ 来館者や中心市街地を訪れた子育て世代に保育室を開放し、施設及び事業のPRを行います。

■取組1-4 親子でことばに触れる機会の充実	文学館
------------------------	-----

事業概要	子どもたちの感受性を育むことができるよう、わらべ唄遊びや絵本の読み聞かせ、ことば遊びなどを通じて、コミュニケーションの基本・文学への入り口となる「ことば」に触れる機会を提供します。保護者にもその楽しさを体験してもらうことで、家庭での教育や親子のコミュニケーションに活かせる内容となるよう実施します。実施にあたっては、参加者のニーズを把握し、事業内容に反映していきます。				
これまでの取組	0～4歳児とその保護者を対象にわらべ唄や絵本の読み聞かせを行う「ちちんぷいぷい」、「2歳児あつまれ!」、「3・4歳児あつまれ!」を実施しています。また、3歳から小学生の子どもとその保護者を対象に、リトミックとことば遊びを取り入れた「クリスマスおたのしみ会」を実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	乳幼児から小学生とその保護者を対象とした事業数		7事業	9事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	アンケート等による ニーズの把握		ニーズの事業への反映		
	各種学習事業 (7事業) 実施		各種学習事業 (8事業) 実施		各種学習事業 (9事業) 実施
	7事業	7事業	8事業	8事業	9事業
年度目標	7事業	7事業	8事業	8事業	9事業

<2023年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	・定例の乳幼児向けおはなし会「ちちんぷいぷい」「2歳児あつまれ!」「3・4歳児あつまれ!」や夏季展オープニングミニコンサート、秋季企画展と連動した「こりあんの森おはなし会」や「ノームを探そう!」、小学生とその保護者を対象とした「百人一首かるた会」、小学生から一般を対象とした「はじめてのお能体験教室」、絵本作家・長田真作講演会の9事業を実施しました。
課題	「2歳児あつまれ!」「3・4歳児あつまれ!」の参加者数が減少しています。ニーズを把握し事業の実施方法を検討する必要があります。
今後の取組の方向性	参加者ニーズを検証し事業の見直しを行います。

■取組2-1 学習情報の発信力の強化【◇】	生涯学習センター
-----------------------	----------

事業概要	学習情報をより多くの市民に提供できるよう、町田市ホームページモバイル（スマートフォン版）の学習情報誌「生涯学習NAVI」の利用促進を図ります。さらに、他団体で発信している情報誌やホームページなどの情報発信媒体との連携を図り、情報発信力を強化します。				
これまでの取組	ホームページや「生涯学習NAVI」の内容を見直しました。また、学習情報に関するポータルサイトの構築に向けて検討しました。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	①スマートフォン版「生涯学習NAVI」の利用促進に向けた取組の実施	未実施	実施（2020年度）		
	②新たな情報発信媒体の活用	未実施	活用（2021年度）		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	利用促進に向けた手法の検討	スマートフォン版「生涯学習NAVI」 利用促進に向けた取組の実施・検証			
	情報発信媒体の把握・検討	媒体活用に向けた調整	新たな媒体の活用・検証		
年度目標（指標①）	検討	実施・検証	実施・検証	実施・検証	実施・検証
年度目標（指標②）	情報発信媒体の把握・検討	媒体活用に向けた調整	活用・検証	活用・検証	活用・検証

＜2023年度の事業実績＞

達成状況（指標①）	B 目標を達成した
取組状況（指標①）	スマートフォン版「生涯学習NAVI」の町田市HPへの掲載、多摩地域の暮らしに役立つ広報誌などの電子ブックや地域情報記事を発信するサイトである「TAMAEbooks」への電子書籍版「生涯学習NAVI」の掲載を継続しました。
達成状況（指標②）	B 目標を達成した
取組状況（指標②）	学習情報提供のデジタル化に向け、生涯学習センターの収集情報のデータベース構築を試行し、2,323件の学習情報をデータベース化しました。作成したデータベースは学習相談資料や主催事業の見直しの際の資料としても活用しました。
課題	・学習情報をより多くの市民に提供するため、生涯学習センターの主催事業のみならず、多様な主体による学習情報を提供する仕組みを構築する必要があります。 ・引き続き、情報発信のデジタル化を進めるとともに、デジタルデバインドにも留意し、必要とする全ての方に情報が届くよう配慮することが必要です。
今後の取組の方向性	・「生涯学習NAVI」など生涯学習情報の提供手段について、従来の紙媒体からデジタル媒体への移行を検討します。 ・多様な主体による生涯学習情報を提供するための仕組みを構築します。 ・インターネットを利用したイベントの開催や、動画配信等による学習コンテンツの紹介、集合形式とオンライン形式を合わせたハイブリット形式イベントの実施など学習機会の提供についてもデジタル化を推進します。

■取組2-2 歴史・文化資源等を活用した出張事業の推進【◇】

文化財係・自由民権資料館・文学館

事業概要	町田市の歴史や文化についてより多くふれてもらえるよう、学校や子どもセンターでの講座や市民センターなどでの展示の実施、他部署が主催するイベントへの参加など、歴史・文化に関する資源や情報を活用した学習事業を様々な地域で展開します。				
これまでの取組	- 生涯学習総務課では、市庁舎イベントスタジオでの東京文化財ウィークに合わせた企画展示や青少年施設ひなた村などでの文化財の展示を行うほか、自治体主催の歴史講座や大学の講義、中学校の歴史の授業などでの出張講義を行っています。 - 文学館では、小学校での出張講座として、町田ゆかりの俳人の紹介と俳句クイズを行う「俳句であそぼう！」や、市庁舎イベントスタジオでの出張展示を実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）		目標値（2023年度）
	出張事業（展示・イベント・講座等）の実施件数		28件		40件
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	事業内容の検証		検証を踏まえた新たな事業の実施		
	出張事業の実施及び周知、関係機関への働きかけ				
年度目標	30件	32件	34件	37件	40件

<2023年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	- 考古・歴史・民俗資料に関する事業では、講座、出張授業、アウトリーチ展示など、62件の事業を実施しました。自由民権資料館主催講座では、多様な形式（「講義型」「セミナー型」「ワークショップ型」など）で、考古・歴史・民俗のプログラムを用意したことから、新規利用者の獲得につながりました。地域の歴史に関する小中学校向け出張授業では、より学校側のニーズに沿った授業内容となるよう、教員やボランティアコーディネーターへのヒアリングを実施し、2024年度からの内容の充実に努めました。 - 文学に関する事業では、ショートショート書き方講座、ショートショートコンクール受賞作品出張展示、キャリア教育授業、町田ゆかり作家紹介授業、遠藤周作展PR展示、遠藤周作展関連イベント、他課主催の講座への講師派遣など、24件の事業を実施しました。
課題	- 小中学校向け出張授業を各学校でさらに活用してもらうため、授業内容の充実とともに、担当する職員のスキルの向上及び平準化が求められます。 - 小中学校で出張授業を継続的に行うためには、学校側のニーズの把握、教員との良好な関係構築の他、授業の効果・メリットをアピールすることが重要です。
今後の取組の方向性	- 児童・生徒が、町田市の歴史や文化について自らもっと学びたいと思えるようにするため、デジタルコンテンツの活用や「ことばらんどショートショートコンクール」と連動させるなど、出張授業の内容充実・継続実施に取り組みます。 - 幅広い年齢層に事業を知ってもらえる出張展示を検討します。 - 玉川大学との協働により作成した文学ガイドブック「町田ブンガク」を活用して町田ゆかり作家や町田が登場する作品についての出張授業を実施します。

■取組2-3 子ども読書活動の推進【◇】	図書館
----------------------	-----

事業概要	生涯にわたって主体的に読書をする習慣を身に付けることができるよう、子ども読書活動の推進に関する全市的な取組をまとめた「第四次町田市子ども読書活動推進計画（2020年度～2024年度）」を策定・推進します。特に、子どもの読書活動に合わせた図書資料の充実とともに、小学校英語の教科化などの動向を踏まえ、外国語の絵本・児童書等を重点的に整備します。				
これまでの取組	第三次町田市子ども読書活動推進計画（2015年度～2019年度）に基づき、庁内各部署で計32の取組を実施するとともに、計画の進捗管理を「子ども読書活動推進計画推進会議」を通じて行っています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	①第四次町田市子ども読書活動推進計画の策定	第三次計画に基づく事業の実施	策定完了（2019年度）		
	②外国語の絵本・児童書の蔵書数	3,966冊	6,500冊		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	第四次計画 の策定	第四次計画に基づく事業の推進 推進会議を通じた事業の進捗確認の実施			
	外国語の絵本・児童書の計画的購入・活用 利用状況等の検証				利用状況 等の検証
年度目標 （指標①）	第四次計画 の策定完了	事業の推進 進捗確認	事業の推進 進捗確認	事業の推進 進捗確認	事業の推進 進捗確認
年度目標 （指標②）	4,500冊	5,000冊	5,500冊	6,000冊	6,500冊

<2023年度の事業実績>

達成状況 （指標①）	B 目標を達成した				
取組状況 （指標①）	・2019年度に策定した「第四次町田市子ども読書活動推進計画」の事業を推進するため、2023年度は7月と1月の計2回、町田市子ども読書活動推進計画推進会議を開催し、結果を図書館ホームページに掲載しました。 ・2025年度からの「第五次町田市子ども読書活動推進計画」の策定に向けて、検討スケジュールや進捗状況等を会議に諮りました。				
達成状況 （指標②）	A 計画以上に目標を達成した				
取組状況 （指標②）	・外国語児童書の充実にむけてふるさと納税を活用したことにより外国語の絵本・児童書の蔵書数が約8,000冊となり、目標値を大きく上回りました。 ・英語図書の活用や英語多読の周知のため、英語多読講演会を2回開催した他に、保護者向け（親子で参加）英語絵本の読み聞かせ講演会を開催しました。親子11組の参加がありました。講座では、電子書籍「Read Along」や多読コーナーのPRを行いました。				
課題	・2024年度中に第五次町田市子ども読書活動推進計画を策定する必要があります。また今後は、国の計画において求められている、デジタル社会への対応や子どもの視点（同世代の若者で行う取組や子ども・若者の意見の取入れなど）、多様な子どもたちの読書機会の確保が重要となります。 ・英語絵本の貸出が進むように、PRの検討が必要です。				
今後の取組の 方向性	・2024年度中の第五次町田市子ども読書活動推進計画の策定に向けて、国の計画において求められている点を踏まえながら、町田市子ども読書活動推進計画推進会議に諮っていきます。 ・英語絵本の貸出が進むように、PRを行います。				

■取組2-4 学校図書館との連携強化【◇】	図書館
-----------------------	-----

事業概要	小・中学校の学校図書館への支援や子どもの読書活動を充実させるために、図書館から学校図書館への貸出のしくみを改善するなど、支援方法を見直して、学校図書館と図書館との連携を強化します。				
これまでの取組	さるびあ図書館を拠点に、「学校図書館支援貸出」（しらべ学習等に対応して、図書館が選書を行って提供する）により、小・中学校の学校図書館へ本を車で配本するサービスを行っています。また、学校図書指導員への研修に協力しています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	①学校図書館支援貸出利用校数	35校	42校		
	②学校図書館支援貸出数	3,768冊	4,500冊		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	学校図書館支援貸出の実施				
	新たな支援 内容の検討	貸出方法等の改善 新たな支援の実施			支援内容 の検証
	年度目標 (指標①)	35校	37校	39校	40校
年度目標 (指標②)	3,800冊	4,080冊	4,220冊	4,360冊	4,500冊

＜2023年度の事業実績＞

達成状況 (指標①)	C おおむね目標を達成した
取組状況 (指標①)	- 学校図書館支援貸出は23校に実施しました。 - 学校図書館支援貸出が利用しやすいように、「テーマ別貸出セット」として、「じどうしゃくらべ」や「伝統工芸」などのテーマで追加購入しました。 - 新たな学校図書館への支援方法として、電子書籍の利用IDを付与しました。これにより、市内のすべての公立小学校と中学校が電子書籍サービスを利用することが可能となりました。
達成状況 (指標②)	C おおむね目標を達成した
取組状況 (指標②)	- 学校図書館支援貸出の冊数は、2,188冊でした。 - 学校図書館への新たな支援方法として、2023年9月に市内すべての公立小・中学校の児童・生徒へ電子書籍サービスの利用ID付与を行いました。児童・生徒のIDから65,514点の貸出がありました。
課題	- 学校図書館と連携をしながら、学校図書館支援貸出の利用について改善を進めていく必要があります。 - 学校図書館において、電子書籍サービスなど学校図書館支援貸出以外のサービスについても利用しやすいように検討する必要があります。
今後の取組の 方向性	- 引き続き、学校図書館支援貸出や学校図書指導員への研修協力などを通して学校図書館の連携を進めていきます。 - 電子書籍サービスについて、学校からの意見を反映できるように取り組んでいきます。

■取組2-5 生涯学習施設の利用促進	文化財係・自由民権資料館・生涯学習センター・図書館・文学館
--------------------	-------------------------------

事業概要	より多くの市民に生涯学習施設を知ってもらい、幅広い世代の利用につながるよう、リーフレットやホームページ、SNSを利用した情報発信のほか、各施設の相互PRをはじめ、市内外の各機関と連携したPR活動を進めます。				
これまでの取組	リーフレットやホームページ、SNSを利用した情報発信を行っています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①連携して行うPR活動件数		4件	10件	
	②SNS発信数		219回	800回	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	新たな連携先の検討・調整	新たな連携先とのPR活動の実施	検証	検証結果に基づくPR活動の見直しと実施	
	SNSを利用した情報発信				
年度目標（指標①）	5件	6件	7件	8件	10件
年度目標（指標②）	520回	610回	670回	720回	800回

<2023年度の事業実績>

達成状況 (指標①)	A 計画以上に目標を達成した
取組状況 (指標①)	- 自由民権資料館で講座・講演会事業を市内各施設で22件実施したほか、生涯学習センター、文学館では庁内他部署や近隣大学・学校、民間団体との連携事業をそれぞれ35件、16件の合計73件実施し、施設の相互PRに努めました。 - 図書館では、移動図書館車が芹ヶ谷公園のイベントや保育園・幼稚園に出張し、図書館のPRを行いました。
達成状況 (指標②)	A 計画以上に目標を達成した
取組状況 (指標②)	X（旧：Twitter）による情報発信を自由民権資料館で124回、図書館で81回、文学館で821回、生涯学習センターで59回実施したほか、文学館ではInstagramによる情報発信も110回実施し、合計1,195回のSNSによる情報発信を行いました。 - 図書館では、Twitterのフォロワー数が毎年増加しており、2023年度には2022年度から88人増加し、1,564人になりました。 - 図書館主催事業の「ひとことPOPコンテスト」の中で、市内5ヶ所の書店にてご協力いただいた「シール投票」について、X（旧：Twitter）にて周知を行いました。複数の書店のSNSでも周知していただきました。
課題	- 幅広い利用者層を開拓するため、施設の実施する講座の内容や実施方法を検討する必要があります。 - それぞれのメディアの特徴を理解し、効果的な活用方法を研究する必要があります。
今後の取組の方向性	- 施設を知ってもらうため、アウトリーチ事業の充実や動画などのデジタルコンテンツの作成に取り組みます。 - ホームページやX（旧：Twitter）などのSNSで情報発信を積極的に行うとともに、SNSとHPの連動やX（旧：Twitter）以外のSNSの活用など、情報発信の方法を検討していきます。 - 施設への関心をつなぎとめられるよう、継続的に提供している情報の充実を図ります。

事業概要	インターネットやスマートフォンの普及により、読書量が減っていると言われてい ます。小学生以下の子どもの読書のきっかけとなる事業や、中高生を対象とした図 書館に足を運びきっかけとなるイベントを行うなど、18歳以下へ向けた取組を強化 します。				
これまでの取組	小学1年生を対象に「としょかんいちねんせい*」を実施しました。小学校高学年、 中学生、高校生を対象にPOP（本の紹介カード）を応募する「まちだライブ・ラ リー」を実施しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	18歳以下の方の利用登録 につながる事業数		2事業	4事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	事業の 実施・ 検討	3事業実施		4事業実施	
			事業内容 の検証		事業内容 の検証
年度目標	2事業	3事業	3事業	4事業	4事業

*としょかんいちねんせい：公立小学校の新1年生に引換券（兼・利用登録用紙）を配布し、図書館・
文学館に引換券を持参した児童にカードケースを贈る事業。

<2023年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	以下の11事業を実施しました。 ①「としょかん1ねんせい」では、図書館に登録・更新した558名へミニプレゼントを渡しました。②5、6歳から小学校低学年を対象とした「読書手帳」を配布しました。③中央図書館で実施している中高生向けグループ学習室「わいわいキャレル」は230組563名の利用がありました。④「小学生向け講座～ちょっぴり図書館員になってみよう!」を実施し、10名の参加がありました。⑤YA世代*を対象に、一日図書館員を実施し、4日間で16名の参加がありました。⑥Yシネマ（10代向け映画会）を実施し、10代の参加は2名（総観客数は41名）でした。⑦中高生向け回遊型謎解きイベント「まちクエ2023*」を8月に実施し、50名の参加がありました。⑧MSP（町田創造プロジェクト）とのコラボイベント「飛んで火にいる夏のボドゲ in 中央図書館」を行い、13名の参加がありました。また、引続き若者参画を進めるため、若者の図書館ボランティアとして「図書館プランナー」の募集をし、14名が登録しました。⑨「ひとことPOPコンテスト2023」を実施しました。書店・地域文庫に周知や投票の協力をお願いし、新たに書店2店舗の協力を得られ計5店舗に協力していただきました。応募総数は324名となり、最優秀賞1名、優秀賞1名、図書館協議会賞1名、図書館長特別賞1名が選ばれました。入賞作品はしおりにして市内各所に配布しました。⑩保護者向け（親子で参加）英語絵本の読み聞かせ講演会を開催し、親子11組の参加がありました。講座では、電子書籍「Read Along」や多読コーナーのPRを行いました。⑪文学館では、小学生から高校生までを対象に「ことばらんどショートショートコンクール」を開催し、1,002点の応募がありました。
課題	・「図書館プランナー」を中心に、中高生世代が読書や図書館に興味を持てもらえるようなイベント等を検討していく必要があります。
今後の取組の方向性	・読書や図書館に興味を持つきっかけになるよう、若者の参画を支援・推進していきます。 ・各事業の内容を見直ししながら、継続した取組を実施します。

*YA世代：ヤングアダルト世代の略で、中学生から大学生ぐらいの年齢層を想定。

*まちクエ2023：まちだクエストの略。謎解きゲームを通じ図書館内を巡ることで、図書館の基本的な構造や、本を借りるだけではない図書館の便利な使い方を体感してもらうイベント。

事業概要	いつでもだれでも気軽に利用できるという図書館の強みを活かし、地域の図書館で認知症予防の講座を市民と協働して実施するなど、シニア世代が住み慣れた地域でいきいきと健康に暮らしていくための取組を行います。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	シニア世代を対象とした事業数		未実施	2事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	実施検討	1事業実施		2事業実施	
			事業内容の検証		事業内容の検証
年度目標	実施検討	1事業	1事業	2事業	2事業

<2023年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	以下の5事業を実施しました。 ・まちだ探・探ゼミナールにおいて、「図書館活用講座」を中央図書館にて実施しました（生涯学習センターとの共催）。 ・中央、鶴川駅前、金森、木曽山崎、堺、忠生の各図書館及び移動図書館にて、シニア世代向け特集や認知症関連図書の特集展示等を行いました。 ・堺図書館で大人のためのおはなし会を実施しました。 ・デジタルデバйд解消事業として、はじめてのスマホ体験（8月、10月、12月）を実施し、49名の参加がありました。 ・スマートフォン・タブレット個別相談会（8月～3月）を実施し、134名の参加がありました。2022年度のスマートフォン・タブレット個別相談会は、利用率が全体で52%に留まっていたが、実際に相談会場にお越しいただいた方への次回以降の日程のご案内等、情報発信方法を変更した結果、2023年度は67%に向上しました。
課題	・シニア世代向けの効果的な情報提供方法や事業内容を検討する必要があります。
今後の取組の方向性	・特集展示やイベントについて、継続して事業を実施します。

■取組2-8 障がい者サービスの充実	図書館
--------------------	-----

事業概要	通常の活字による読書が困難な人の学びのきっかけとなるよう、マルチメディアDAISY（デージー）*の貸出を拡充するなど、より対象者を広げた障がい者サービスを行います。				
これまでの取組	視覚障がいなどで活字を読むことが困難な人、寝たきりなどで図書館への来館が困難な人へのサービスを行っています。さらに、視野狭窄などにより読書が困難な人を対象に、リーディングトラッカー（読書補助具）の貸出を実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	通常の活字による読書が困難な人を対象とした事業数		1事業	3事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	事業の実施・検討	2事業実施		3事業実施	
			事業内容の検証		事業内容の検証
年度目標	1事業	2事業	2事業	3事業	3事業

*マルチメディアDAISY（デージー）：音声と一緒に、文字や絵、写真などを見ることができるパソコンで読む本のこと。

<2023年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	以下の3事業を実施しました。 ・マルチメディアDAISY上映会を行い、26名の参加がありました。図書館が所蔵する多様な資料のPRを行いました。若手教員育成研修で資料の紹介と、学校図書館支援貸出でも利用できることを案内しました。マルチメディアDAISY資料は8点増えて合計55点になり、読書が困難な人が楽しめる資料が充実しました。 ・音訳ボランティア経験者向けの技能向上講座を行い、10名の参加がありました。 ・リーディングトラッカーの貸出を行いました。 その他、デージー再生機器*貸出サービス実施検討のため、周辺自治体に対し調査を行いました。また、児童向け点字体験会を行い、25名の参加がありました。
課題	・読書バリアフリーに関するPR活動を効果的に実施する必要があります。 ・ボランティアの担い手が減少しているため、今後の持続的なサービス提供体制について検討する必要があります。
今後の取組の方向性	・ボランティアとの協力体制を維持し、技能向上の支援を行います。 ・デージー再生機だけでなく、様々な読書支援機器について情報収集を行います。

*デージー再生機器：目が見えない方や本を読むことが難しい方のための「音の本」であるDAISY（デージー）図書を再生できる専用の機器で、簡単な操作で聞くことができる。

■取組2-9 図書館資料による情報提供機会の充実	図書館
--------------------------	-----

事業概要	町田市の施策や町田市の魅力をより多くの市民にPRするために、図書資料の展示方法やPRを改善しながら、「本の特集コーナー」による情報提供機会の充実を図ります。				
これまでの取組	2015年度から町田市の施策をPRするための「本の特集コーナー」を市の各部署と連携して行っています。市の施策を市民に役立ててもらおうとともに、図書館利用者を増やす取り組みのひとつとなっています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	他部署や他機関と連携した「本の特集コーナー」の実施数		19回	33回	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	改善点の洗い出し	改善案の実施	改善点の洗い出し	改善案の実施	改善点の洗い出し
年度目標	19回	26回	26回	33回	33回

<2023年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	- 各部署からの希望時期が重複した場合は地域館で展開できるよう調整を行い、他部署や他機関と連携した「本の特集コーナー」を87回実施しました（中央図書館28回、さるびあ図書館4回、鶴川図書館3回、金森図書館2回、堺図書館4回、鶴川駅前図書館44回、忠生図書館2回）。 - 特集コーナーの実施に当たり、担当課所管のHP・SNSでも周知を行いました。 - 申込書の改定を行った結果、スケジュールの調整が容易になり、今まで以上に特集の展開ができるようになりました。
課題	特集コーナーを設置できる箇所に限りがあることを勘案しながら、他部署や他機関が希望する時期と場所に極力実施できるよう、調整する必要があります。
今後の取組の方向性	他部署や他機関からの申し込みを最大限実現できるよう、今後も継続して取り組んでいきます。

■取組2-10 「町田ゆかりの作家」紹介事業の充実	文学館
---------------------------	-----

事業概要	中学生を対象に町田ゆかりの作家*を紹介し、町田市への愛着をさらに持ってもらうきっかけとなるよう、パンフレット「町田の文学ガイド」を作成します。				
これまでの取組	大人向けの資料として、展覧会で紹介した町田ゆかりの作家を図録にまとめています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	「町田の文学ガイド」作成		未実施	作成・配布	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	他市事例等の調査	ゆかり作家情報の整理・調査	企画立案・編集方針の決定	原稿作成 校正作業	印刷・完成 配布
年度目標	調査完了	調査完了	編集方針の決定	原稿完成	完成・配布

*町田ゆかりの作家：遠藤周作や森村誠一など、その生涯や作品が町田市と深く関わり、文学の分野で一定の社会的評価を受けている小説家、歌人、俳人、詩人、絵本作家、漫画家等。

<2023年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	玉川大学と町田デザイン&建築専門学校の学生とともに取り組んでいた中学生向けの文学ガイド「町田ブンガク」が完成し、出張授業を行いました。
課題	「町田ブンガク」をPRし多くの中学生に利用してもらう必要があります。
今後の取組の方向性	「町田ブンガク」を利用した出張授業を行います。

■取組3-1 地域の課題解決に向けた学習支援【◇】	生涯学習センター
---------------------------	----------

事業概要	地区協議会をはじめとした地域団体や関係機関と連携・協働しながら、住民自らが課題を見つけ出し、解決に向けて行動できるよう学習支援を進めています。				
これまでの取組	鶴川地区の交流促進や様々な困りごとの相談の場となっている鶴川地区協議会主催「3水スマイルラウンジ」にて「学びのひろば」を共催し、地域の歴史や文化を理解する講座などを実施しています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	連携事業を実施した地区協議会の数（累計）	1地区	5地区		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	各地区協議会への働きかけ				
	地区協議会との連携事業の実施（1地区）	検証	地区協議会との連携事業の実施（1地区）	検証	地区協議会との連携事業の実施（2地区）
	2地区	検証	3地区	検証	5地区

<2023年度の事業実績>

達成状況	D 目標に達しなかった
取組状況	・2022年度に引き続き、鶴川地区協議会と共催し、和光大学ポプリホール鶴川を会場に開催している「3水スマイルラウンジ」の一企画として、地域の自然、歴史、文化をテーマにした『まなびのひろば』を6回実施しました。 ・市民型提案事業において、町田市成瀬・成瀬台地区における高齢者問題に取り組んでいる地域団体と連携し、地域の高齢者問題をテーマとした連続講座を実施しました。 ・鶴川地区協議会が毎月最終金曜日に開催している「ハッピーフライデー」の一企画として、2024年4月に開催を予定している金融リテラシーをテーマとした講座の実施準備を行いました。
課題	・地域課題が多様化していることから、地区協議会に限定せず、地域の様々な主体と連携・協働していく必要があります。 ・事業の認知度向上に向け、広報活動や周知活動に取り組む必要があります。 ・様々な世代のニーズに沿った事業の展開が必要です。
今後の取組の方向性	・各地域において、地区協議会以外にも地域課題に取り組む団体が活動していることから、生涯学習センター運営見直し実行計画に基づき、今後は地区協議会に限定せず、地域で活動している様々な団体と連携・協働して事業を実施します。

■取組3-2 町田の歴史情報の提供【◇】

文化財係・自由民権資料館

事業概要	市民の郷土への理解や愛着がさらに深まるよう、町田の歴史をわかりやすく伝える「町田デジタルミュージアム*」を構築し、公開します。				
これまでの取組	新規事業				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	町田デジタルミュージアム構築の進捗		未実施	システム構築完了、公開（2022年度）	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	歴史資料分構築・公開	考古資料分構築・公開	考古及び民俗資料分構築・公開	公開・利用促進	
	歴史コンテンツ編集				
年度目標	歴史資料分公開	考古資料分公開	考古及び民俗資料分公開	公開	公開・検証

*町田デジタルミュージアム：町田市が所蔵する考古、歴史、民俗資料をデジタル化し、インターネット上で閲覧できるようにする仕組みのこと。

<2023年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	・2023年4月1日から2024年3月31日までの町田デジタルミュージアムのアクセス数が553,360件となり、目標値を大きく上回ったため、A評価としました。 ・自由民権資料館・考古資料室・三輪の森ビジターセンターでの展示や出張事業を実施する際には、町田デジタルミュージアムの二次元コードを様々な場面で活用し、周知を図りました。 ・町田デジタルミュージアムを紹介する名刺型カードや、町田デジタルミュージアムの二次元コードが記載された「遺跡マップ」を町田ツーリストギャラリーなどで配布しました。 ・地域の歴史に関する小中学校向け出張授業では、タブレット端末を使って町田デジタルミュージアムの活用を図りました。
課題	・町田デジタルミュージアムの利用状況を検証し、公開内容の更新に向けた検討が必要です。 ・町田デジタルミュージアムをより多くの方に利用していただくための周知が必要です。
今後の取組の方向性	・まちだの歴史に関する展示やイベント等実施時には、町田デジタルミュージアムを積極的に活用します。 ・2025年度の町田デジタルミュージアムの内容更新に向けた検討を行います。

■取組3-3 「文学の扉」事業の推進【◇】	文学館
-----------------------	-----

事業概要	より多くの市民に文学やことばに親しんでもらえるよう、町田ゆかりの作家の紹介や文字・ことばの魅力を伝える展覧会を、ことばに関連する他ジャンルを幅広く取り込みながら、より柔軟で多様な内容により実施します。また、若年層を対象とした創作活動などの学習事業を充実します。				
これまでの取組	町田ゆかりの作家を紹介する展覧会を中心に年4回の企画展を実施しています。また、0歳児・1歳児対象のおはなし会「ちちんぷいぷい」や小学生対象の俳句実作講座「子ども俳句教室」、一般対象の文学やことばに関する講演会など、ライフステージに合わせた学習事業を実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①展覧会を通じ、新たな興味や学習意欲につながった人の割合（観覧者アンケート）		84%	90%	
	②中高生から20歳代を対象とした事業数		1事業	3事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	展覧会の実施、内容の検証・改善				
	若年層対象事業の実施・検討	若年層対象事業（2事業）実施		若年層対象事業（3事業）実施	
	年度目標（指標①）	86%	87%	88%	89%
年度目標（指標②）	事業の検討	2事業	2事業	3事業	3事業

<2023年度の事業実績>

達成状況（指標①）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標①）	展覧会を通じて新たな興味を喚起された観覧者の割合は、春季展98.2%、夏季展96.7%、秋季展94.5%、冬季展93.1%、平均95.6%となり目標値を上回りました。
達成状況（指標②）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標②）	・展覧会では柔らかなタッチと淡い色遣いを特徴とするライター兼イラストレーターの「今日マチ子展」を開催しました。学習事業では、ゲーム作家・書評家として活躍する渡辺祐真氏が本の読み方を講義する「スケザネ図書館」、20～30代の女性に認知度の高い山内マリコ氏によるトークショー、市内在住・在学の小・中・高校生を対象とする「ことばらんどショートショートコンクール」を実施しました。 ・「ことばらんどショートショートコンクール」には1002篇の応募がありました。またコンクールと連動した事業として関連動画2件を公開するほか、出張授業を13回、出張展示を2回行い、コンクールのPRと普及に努めました。
課題	・文学への新たな興味を喚起するために、世間のニーズを先取りし、継続的に魅力ある展覧会を開催していくことが必要です。 ・SNSの動向など情報収集を行い、若い世代のニーズを把握することが必要です。 ・多くの学校でショートショートコンクールに関心を持ってもらうために、教員への理解促進をすすめ連携強化を図る必要があります。
今後の取組の方向性	・直接的な体験や感動を届けるとともに、SNS等を活用した事業も検討します。 ・「ことばらんどショートショートコンクール」への応募意欲を喚起するために、出張授業や出張展示、動画公開を継続的に行っていきます。

■取組3-4 文化財の維持・保護・復旧の推進	文化財係
------------------------	------

事業概要	文化財を維持・保護し、下三輪玉田谷戸横穴墓群*、細野喜代四郎書斎*など、未整備、未公開の文化財の復旧・修復を推進します。				
これまでの取組	横穴墓、古民家など市内の指定文化財を復旧し、整備を進めています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	下三輪玉田谷戸横穴墓群復旧整備		現況測量完了	整備完了・公開	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	整備 事前準備	保存管理計画策定 遺構再確認 調査、保存 処理調査	実施設計	整備工事	公開
年度目標	史跡整備事前準備完了	保存管理計画策定開始 遺構再確認調査 保存処理調査	保存管理計画策定完了 実施設計	整備工事	整備完了・公開

*下三輪玉田谷戸横穴墓群：古墳時代後期（7世紀ごろ）の地域の有力者の墓。崖面に横穴を掘り遺体を安置した。都内で唯一、墓の内部に家形の彫刻が施されている。

*細野喜代四郎書斎：町田を代表する自由民権運動家・細野喜代四郎が書斎として愛用した土蔵。解体され、現在部材の状態で保管されている。

<2023年度の事業実績>

達成状況	E 目標を大きく下回った、実施できなかった
取組状況	- 各文化財について、定期的な点検及び清掃を行いました。 - 下三輪玉田谷戸横穴墓群については、横穴墓群内の天井・壁の崩落の進行抑制措置として、土の風化の原因となる日光を遮断するため、横穴入口の扉の修繕を行いました。
課題	各文化財の状況観察を継続的に行い、保存措置を行いながら、整備を検討していく必要があります。
今後の取組の方向性	- 各文化財の劣化を最小限に抑えるため、必要に応じて応急的な保存措置を講じます。 - 下三輪玉田谷戸横穴墓群については、保存管理計画策定に向け、専門家の助言を得るなどし、順次検討を進めます。

■取組3-5 文化財の公開・活用の充実	文化財係
---------------------	------

事業概要	文化財を積極的に公開・活用し、市民が文化財に触れ合える機会をより多く提供します。				
これまでの取組	市内の指定文化財の公開・活用イベントを実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	文化財の公開・活用イベント件数		4件	6件	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	イベント4件実施			イベント5件実施	イベント6件実施
	イベント内容検証		イベント内容検証・新規イベント検討	イベント内容検証・新規イベント検討	イベント内容検証・新規イベント検討
	4件	4件	4件	5件	6件

<2023年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	以下7件の文化財の公開・活用イベントを実施しました。 ①町田市考古資料室特別開室（9月 2日間） ②旧荻野家住宅「パネル展示」 ③「スマホと歩こう！まちだウォーキングラリー」遺跡等10ヶ所 ④文化財防火デー（相原町 長福寺） ⑤旧荻野家住宅「雛飾り展示」 ⑥町田市考古資料室特別開室（3月） ⑦講演会・遺跡見学会「高ヶ坂石器時代遺跡～山本亀三が見た町田の遺跡～」
課題	・市内文化財の認知度向上のためには、庁内外と連携したイベントやデジタルを活用したイベント等を、今後も継続して実施していく必要があります。
今後の取組の方向性	・文化財が所在する公園や、近隣施設のイベントとあわせた公開やイベントを検討し、実施します。 ・文化財の公開や活用イベント時には、他の文化財のPRも積極的に行います。

事業概要	自由民権運動と町田の歴史情報をさらに発信できるよう、これまで収集・整理した市域の歴史資料を基にした企画展や、収蔵資料に加え関連資料を市内外の施設や個人から借用し展示する特別展を実施します。				
これまでの取組	企画展・特別展を年3回実施しています。 また、来館者アンケートにより展示等、資料館の満足度について調査を実施しています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	資料館への満足度 （来館者アンケート）	77%	85%		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	企画展・特別展 2回実施	企画展・特別展 3回実施	企画展・特別展 3回実施	企画展・特別展 3回実施	企画展・特別展 3回実施
	展示・展覧会の内容の検証・改善				
	来館者アンケートによる調査・検証・改善				
年度目標	80%	82%	83%	84%	85%

＜2023年度の事業実績＞

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	・常設展に加えて、「町田のおカイコさん」と「市民の歴史探求事始め～町田自由民権力レッジ4期生の成果～」の企画展2回を公開しました。また、「町田のおカイコさん」の公開中に実施した自由民権資料館の愛称を決める投票では、合計308件の投票をいただき、最も得票数が多かった「まちれき」に愛称を決定しました。 ・企画展の来館者アンケートでは、「興味深かった」または「興味を持てた」と回答した方の割合は99%となり、多くの方から好評を得ることができました。
課題	・幅広い世代に展示を観覧してもらうための取り組みが必要です。 ・市域の史料を展示に活かせるように、史料の散逸を防ぐ取り組みや、史料整理を計画的に進める必要があります。
今後の取組の方向性	・幅広い世代に、展示内容の理解を深めてもらうため、企画展に合わせたまち歴講座の実施や、図録を作成し販売を行います。 ・市内小中学校再編に伴う学校の歴史的な資料散逸を防ぐため、各学校及び関係部署と協力しながら、歴史的資料の評価や、保管に向けた体制を整えます。

事業概要	より深く歴史について学びたいという市民のニーズに応えられるよう、古文書講座や町田自由民権カレッジを実施するほか、特別展・企画展に関連した講演会や講師を招いた講座・講演会等を実施します。				
これまでの取組	古文書講座、町田自由民権カレッジのほか特別講座や、特別展に関連した講演会を実施しています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	講座・講演会等の実施回数	60回	70回		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	講座・講演会 40回実施	講座・講演会60回実施		講座・講演会70回実施	
	講座・講演会の内容の検証・改善				
	40回 ※改修工事の為	60回	60回	70回	70回

<2023年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	・まち歴史講座では多様な形式（「講義型」「セミナー型」「ワークショップ型」など）で、考古、歴史、民俗の各プログラムを用意し開催しました。また、町田市固有の歴史資源を活用したアウトリーチ事業（小中学校へ出張歴史授業、市民センターや子どもセンター等での講座の実施や展示、各地域の歴史資源を活用したフィールドワーク等）、自由民権資料館内での団体解説など、79件の講座を実施しました。
課題	・小中学校へ出張歴史授業で、自由民権資料館を利用してもらうための広報や、活用していただくための授業プログラムやコンテンツの充実を図ることが必要です。
今後の取組の方向性	・小、中学校へ出張歴史授業を活用してもらうためのプログラムを再編成します。 ・引き続き、考古、歴史、民俗のプログラムを、「講義型」「セミナー型」「ワークショップ型」などの形式で企画し、実施します。

事業概要	市民の調査・研究を援助するレファレンスは、市民一人一人の学びを深めることができる重要なサービスです。求める資料を見つけることができるように、レファレンスサービスの充実に向けて技術の向上を図ります。さらに、レファレンス事例の公開や、インターネット情報にアクセスできる環境を整備します。				
これまでの取組	レファレンス事例をデータ化し、インターネットで公開しました。基本的な資料を案内する「パスファインダー」を作成しました。調べ物に役立つ情報をまとめた「レファレンス通信」を発行しました。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	レファレンス事例の公開件数	162件	250件		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	➤ レファレンス事例の公開				
	➤ レファレンス事例の点検と今後の改善方法の検討		➤ レファレンス技術の向上のための改善プラン実施		➤ 事例の公開の振り返り
	190件	205件	220件	235件	250件

＜2023年度の事業実績＞

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	・レファレンス事例をインターネットで25件公開し、公開件数は延べ304件になりました。 ・国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している「レファレンス協同データベース」にレファレンス事例を25件公開しました。 ・レファレンス事例や資料を紹介する「レファレンス通信」を2回発行しました。 ・パスファインダー「まちだの自然」「法律情報」の改訂を行いました。 ・新たにレファレンスカウンターを担当できる職員の養成を行ったり、都立図書館等の研修に参加してスキルアップを行いました。
課題	・レファレンス事例については、利用者の調べ物に役立つよう、引き続き幅広い分野について公開していく必要があります。特に町田の地域資料に関する事例は問い合わせもあり、増やしていく必要があります。 ・レファレンスサービスの認知度を上げる取組が必要です。 ・「パスファインダー」については、最新の情報を提供するため定期的に改訂する必要があります。 ・レファレンスサービスの充実には、職員の技術力向上が欠かせず、人材育成が必要です。
今後の取組の方向性	・引き続き、町田の地域資料を中心とした幅広い分野について、レファレンス事例を公開していきます。 ・「レファレンス講座」等のイベントや「レファレンス通信」等の発行を通じて、サービスの認知度が上がるような工夫を行います。 ・「パスファインダー」の改訂を行います。 ・レファレンス技術向上のため、都立図書館等の研修に積極的に参加します。

■取組4-1 市民提案型事業の推進【◇】	生涯学習センター
----------------------	----------

事業概要	学習ニーズをより反映させた内容となるよう、市民団体の提案を基に地域課題の解決につながる学習講座を提案者とともに作り上げていく市民提案型事業「まちチャレ*」を拡充します。				
これまでの取組	地域で活動する学生団体が企画・運営する学生活動報告会*を開催するとともに、市民提案型事業「まちチャレ」を開始しました。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	市民提案型事業「まちチャレ」で実施する講座数	5講座	8講座		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	5講座実施	6講座実施		7講座実施	8講座実施
	事業実施体制の整備				
年度目標	5講座	6講座	6講座	7講座	8講座

*まちチャレ：市民が日常生活の中の課題等を基に企画提案したものを、生涯学習センターとともに実施する学習講座。

*学生活動報告会：町田市や相模原市で活躍する学生団体が、ポスターブース等で活動内容を紹介するイベント。

＜2023年度の事業実績＞

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	・8講座を実施予定でしたが、うち1講座について、企画運営団体の都合により実施を辞退する申し出があったため、最終的に7講座の実施となりました。 ・様々な分野の学習ニーズを反映し、「フィンランドの生活から学ぶ子育てメソッド」「語り伝えられてきた昔話の世界」「なやめる人に寄り添うレシビ」「デフリンピックがやってくる」「さりげない見守り活動/ みまもりサポーター養成連続講座」「子どもをまもろうそだてよう」「プロが教えるお金の講座」を実施しました。 ・「デフリンピックがやってくる」、「さりげない見守り活動/ みまもりサポーター養成連続講座」では、地域や関係者の共助の取り組みを促進する講座を実施することができました。 ・若者や育児中の保護者が参加しやすいよう、3講座は保育付きで実施しました。また、「プロが教えるお金の講座」は学生が企画に参画し、若者世代向けの講座を実施しました。 ・1講座は南第三高齢者支援センターやゆりの木会館を会場とすることで、地域での学習機会を提供しました。
課題	生涯学習センターの施設改修に伴う休館期間においても、継続して事業を実施する必要があります。
今後の取組の方向性	・生涯学習センターの施設改修に伴う休館期間は、市内の公共施設等を会場として事業を継続して実施します。 ・生涯学習センター運営見直し実行計画に基づき、選定基準等を見直し、仕組みを再構築します。

■取組4-2 協働による研究・発表の推進【◇】	自由民権資料館・文学館
-------------------------	-------------

事業概要	市民の学習・研究意欲が高まり、学んだ成果を地域に還元してもらうことができるよう、市民の学習・研究活動の支援を行うとともに、協働して研究成果物の刊行や企画展・イベント等を実施します。				
これまでの取組	- 自由民権資料館では、古文書講座や自由民権カレッジなどの修了生が組織する歴史研究グループの研究活動を支援しています。また、資料館の収蔵する史料の整理の一部を学生ボランティアの協力により行っています。 - 文学館では、2年を任期として市民がテーマを設定して研究を進める「市民研究員制度」を実施しています。また、市民研究員との協働により定期的に研究成果物を刊行し、研究発表の支援を行っています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①研究成果物の刊行に向けた事業数		6事業	8事業	
	②研究発表会等の実施回数		未実施	毎年度実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	研究支援及び成果物の刊行				
	企画展・研究発表会検討		企画展・研究発表会実施		
年度目標 （指標①）	6事業	7事業	7事業	8事業	8事業
年度目標 （指標②）	検討	実施	実施	実施	実施

＜2023年度の事業実績＞

達成状況（指標①）	B 目標を達成した
取組状況（指標①）	自由民権資料館では、地域で歴史を研究する団体が定期的に活動できるように支援を継続し、資料集刊行に向けた解説を継続して「晴雨日記2」を刊行するための準備が整いました。優先的に整理が必要であると選定した重要史料群4家の整理についても研究団体の協力を得ながら進めました。また、文学館では、玉川大学と町田デザイン＆建築専門学校の学生とともに中学生向け文学ガイドブック「町田ブンガク」を完成させました。この結果、研究成果物の作成に向けた事業数は8事業となりました。
達成状況（指標②）	B 目標を達成した
取組状況（指標②）	- 自由民権資料館では、自由民権カレッジ卒業生（4期生）と協働で企画展を開催し448人が来館しました。 - 文学館では、玉川大学の学生とともに「町田ブンガク」を活用した出張事業を2回行ったほか、町田デザイン＆建築専門学校の学生と協働して出張展示「ことばらんどショートショートコンクール受賞作品展」を実施しました。
課題	- 地域で歴史を研究する団体を支援するとともに、より多くの学習機会を提供するため、その学習するための資料となる史料整理を進める必要があります。 「町田自由民権カレッジ」の卒業生による団体との協働事業については、協働事業の維持・継続の手法もしくは改編の検討を視野に入れる必要があります。 「町田ブンガク」を広く活用してもらえるよう、PRすることが必要です。 「町田ブンガク」事業完了に伴い、新たな事業の検討が必要です。
今後の取組の方向性	- 地域の歴史研究をする団体の活動を支援し、解説作業、重要史料群をはじめとする史料整理・目録作成作業を継続して行います。 「町田ブンガク」を活用した町田ゆかり作家や町田が登場する作品についての出張授業を行います。 - 学生たちとの新たな協働事業を検討します。

■取組4-3 地域で活動するボランティアの養成・支援【◇】	図書館
-------------------------------	-----

事業概要	おはなし会などの本にかかわる活動がより活発に行われるよう、地域や学校で活動するボランティアを養成するとともに、ボランティアが行うおはなし会の開催を支援します。				
これまでの取組	各図書館でのおはなし会については、ボランティア入門講座を行っておはなし会の担い手を育成し、職員とボランティアが協力して、おはなし会を実施しています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	①地域で活動するボランティア向け講座の開催回数	1回	3回		
	②地域で活動するボランティア向け講座への参加者数	26人	90人		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	ボランティア向け講座の実施、内容の検証・改善				
	新たな支援方法の検討		新たな支援の実施		
年度目標（指標①）	1回	1回	2回	2回	3回
年度目標（指標②）	30人	30人	60人	60人	90人

<2023年度の事業実績>

達成状況（指標①）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標①）	・読み聞かせ活動に関わる保護者やボランティアを対象とした絵本の読み聞かせ講座「基礎編」を3回、ボランティア養成講座を1回（全3回）開催しました。図書館ボランティアを対象とした研修を1回開催し、計5回開催しました。
達成状況（指標②）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標②）	・読み聞かせ活動に関わる保護者やボランティアを対象とした絵本の読み聞かせ講座「基礎編」に29人、ボランティア養成講座に10人の受講生が全日程出席し受講終了しました。図書館ボランティアを対象とした研修に14人参加し、延べ73人の参加がありました。
課題	・基礎編だけではなく実践編を行うなど、地域や学校で活動するボランティアのニーズをくみ取って、講座の計画を進める必要があります。 ・図書館ボランティアを養成するための講座は、これまでの「語り」、「乳幼児」といったカテゴリーに加えて、新たに「絵本」についての講座を検討する必要があります。 ・既存のボランティアの技術と意欲の向上に向けた定期的なフォローが必要になります。
今後の取組の方向性	・活動のすそ野が広がるよう、ニーズに応じた講座内容や支援方法を検討します。 ・新たに絵本ボランティアの稼働に向けて養成講座をはじめとした事業を組み立てます。 ・既存のボランティアの方がこれまで以上に活躍できるように、おはなし会等の取り組みを進めます。

■取組4-4 学習成果の発表機会の支援	生涯学習センター
---------------------	----------

事業概要	生涯学習センターを拠点として活動している市民団体や、町田市及び近隣地域で活動する学生団体が、より多くの人に日頃の活動の成果を発表できる機会を提供します。				
これまでの取組	日頃の活動の成果を発表する「生涯学習センターまつり」、「学生活動報告会」を開催しています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）		目標値（2023年度）	
	①生涯学習センターまつりへの参加団体数（来館者数）	53団体（2,167人）		58団体（2,500人）	
	②学生活動報告会への参加団体数	9団体		11団体	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	生涯学習センターまつりの実施（運営委員会による内容検討）				
	学生活動報告会の実施（参加学生団体への支援・内容検討）				
	新たな支援内容の検討	新たな支援に向けた調整	新たな支援の実施		検証
年度目標（指標①）	54団体（2,230人）	55団体（2,300人）	56団体（2,370人）	57団体（2,430人）	58団体（2,500人）
年度目標（指標②）	10団体	10団体	10団体	11団体	11団体

<2023年度の事業実績>

達成状況（指標①）	D 目標に達しなかった
取組状況（指標①）	生涯学習センターで活動している団体の日頃の活動成果を発表する場として、生涯学習センターまつりを3年ぶりに来場型で実施し38団体に参加しました。当日は2022年度に引き続き「町田時代祭り」、「文学館まつり」、「ゆうゆう版画美術館まつり」との連携企画として各まつりを回るスタンプラリーも実施して周知を行い、1,200人が来場しました。
達成状況（指標②）	B 目標を達成した
取組状況（指標②）	地域で活動している学生団体の成果発表と地域との協働の場として、学生活動報告会ガクマチEXPOを開催しました。2023年度は事業企画から学生の意見を取り入れ、謎解きゲームの要素を取り入れて団体活動のPRを行いました。当日は、青山学院大学、桜美林大学、法政大学、和光大学などから11団体が参加し、287人が来場しました。
課題	- 新型コロナウイルス感染症の影響が長期化したことで、活動を終了した団体や休止した団体が多いため、新たな参加団体獲得に向けた取り組みが必要です。 - 若者層、生産年齢層の参加を増やすため、事業内容や広報手段を検討していく必要があります。
今後の取組の方向性	2024年10月から1年3か月程度、改修工事に伴い生涯学習センターが休館となるため、開催方法を見直す等、学習成果の発表機会の支援を検討します。 - デジタルの活用など、若者層、生産年齢層の興味を引くような事業内容、広報手段を事業に取り込みます。

■取組4-5 生涯学習ボランティアバンク事業の推進	生涯学習センター
---------------------------	----------

事業概要	生涯学習ボランティアの知識や技能を広く市民の学習活動に活かすことができるよう、生涯学習ボランティアバンク事業の更なる周知に努め、利用件数の向上を図ります。				
これまでの取組	小学校PTA連絡協議会において、保護者向けに事業の周知を図りました。 また、事業の周知のため、生涯学習センターまつりにおいて一日体験講座を実施しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	生涯学習ボランティアバンクの利用件数		16件	30件	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	新たなPR 方法の検討	新たなPR 方法の実施	検証	検証結果に基づくPR方法の 見直しと実施	
	生涯学習ボランティアバンクー一日体験講座の実施				
年度目標	18件	22件	25件	28件	30件

<2023年度の事業実績>

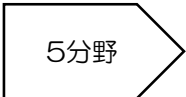
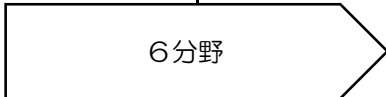
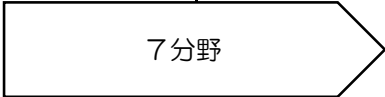
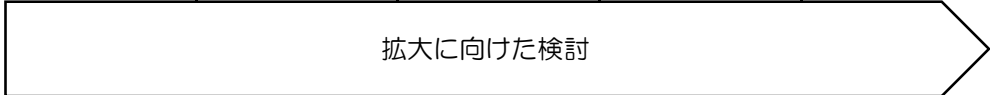
達成状況	D 目標に達しなかった
取組状況	・3年ぶりにボランティアバンク講師リストを改定し、子ども向け指導者がわかりやすくなるよう誌面を更新し、子ども施設や学校ボランティアコーディネーター向けに周知を行いました。登録団体数は2022年度比4件減の88件となり、制度の利用も2022年度比3件増の7件に留まりました。 ・登録団体の指導スキル向上のため、ものづくりの指導者養成を行っている市民団体と連携し、指導者養成講演会「子どものやる気を引き出す学習プログラムの作り方」を開催しました。
課題	・市内小中学校の地域学校協働活動等での活用が進むよう、学校と地域の学習指導者をつなぐ仕組み作りが求められています。 ・引き続き、子ども向け指導スキルの向上のため、登録者が学ぶ機会を拡充していく必要があります。
今後の取組の方向性	・新型コロナウイルス感染症の流行前後で市民活動にも変化が生じたことを踏まえ、制度の見直しを進めるとともに、制度の積極的な周知に努めます。 ・学校や子ども施設での利用促進のため、登録者向けの研修の実施や制度の改善を図ります。

事業概要	障がいのある人が、社会で生活しながら学び続けられるように、視覚や聴覚などの障がいに応じた学習要求の調査、研究を行い、学習プログラムを開発します。その上で、発表の場を設けることで障がい者の生涯学習を推進します。				
これまでの取組	主に知的障がいのある人を対象とした障がい者青年学級において、学級ごとに学習成果の発表の場を設けるなど、生涯学習の推進に取り組んでいます。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	障がいに応じた学習成果の発表の場		未実施	実施（2021年度）	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	調査・研究	学習プログラムの開発	事業の実施・検証	事業の実施・検証	事業の実施・検証
年度目標	調査・研究	学習プログラムの開発	実施・検証	実施・検証	実施・検証

<2023年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	・障がいのある人のための学習講座【肢体不自由編】として全4回コースの講座「車いすや義手でも、できること」を実施しました。 ・講座の周知にあたっては、当館を利用される障がいのある方にも直接声を掛けるなどした結果、全受講者のうち3割ほどの肢体不自由の方の参加がありました。そのほか、聴覚障がいのある方、視覚障がいのある方も受講しました。 ・全4回のうち3回に講師を障がいのある当事者に講師依頼したうえ、講座のなかでは講師・受講者にかかわらず全ての参加者同士の話し合いの場を設けたことで、障がい者の発表の場を充実させることができました。 ・アンケートでは、肢体不自由について理解を深めることができたと答えた人の割合は100%でした。
課題	・障がいのある方の参加は安定してきていますが、引き続き対象とする障がい種別に配慮したPR方法の工夫が必要です。 ・聴覚、視覚、身体障がいといった障がいに応じた学習講座は、障がい者の学習成果を発表する場の充実のため、今後も実施していく必要があります。
今後の取組の方向性	・障がいのある人のための学習講座は、関係団体に協力を求めてPRを行うなど受講者を広く募集し、障がい者の学習成果を発表する場の充実のため、今後も実施していきます。

■取組4-7 図書館運営の地域協働化の促進	図書館
-----------------------	-----

事業概要	市民の学習を支える図書館活動を市民参画・協働でこれまで以上に進めることができるよう、図書館で活躍するボランティアの活動分野を拡げていきます。				
これまでの取組	児童サービスの「おはなし会ボランティア」、障がい者サービスの「宅配ボランティア」・「音訳ボランティア」・「点訳ボランティア」・「対面朗読ボランティア」で市民ボランティアが活動しています。				
活動指標	指標			現状値（2017年度）	目標値（2023年度）
	ボランティア活動分野の拡大			5分野	7分野
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					
					
年度目標	5分野	6分野	6分野	7分野	7分野

<2023年度の事業実績>

達成状況	C おおむね目標を達成した
取組状況	・以下の6分野でボランティアの活動がありました。 ①おはなし会ボランティア（小学生・幼児向け：221回、乳幼児向け105回、英語おはなし会：12回開催） ②宅配ボランティア（宅配件数：341件） ③音訳ボランティア（音訳資料製作タイトル数：34点） ④点訳ボランティア（点訳資料製作タイトル数：14点） ⑤対面朗読ボランティア（対面朗読件数：350件） ⑥イベント企画ボランティア（イベント回数：1回） ・イベント企画ボランティアとして、YA世代の図書館利用促進を目的に、MSP（町田創造プロジェクト）と図書館のコラボイベント「飛んで火にいる夏のボドゲ in 中央図書館」を行い、13名の参加がありました。また、引続き若者参画を進めるため、若者の図書館ボランティアとして「図書館プランナー」の募集をし、14名が登録しました。イベントの実現に向け検討を行いました。
課題	・「図書館プランナー」を中心に、イベントの検討を進めていく必要があります。
今後の取組の方向性	・今後もイベントの企画・運営等の分野を「図書館プランナー」を中心に開拓し、読書や図書館に興味を持つきっかけになるように検討を進めていきます。

■取組4-8 市民の文学活動への支援	文学館
--------------------	-----

事業概要	多くの市民が文学の楽しみを知り、市民同士の交流が広がるよう、市民の活動の自発性を尊重しながら、その学習成果や文学的知識、技能、表現力などを還元できる機会をつくります。				
これまでの取組	読み語り実行委員会との朗読会、紙芝居サークルとの紙芝居上演会、幼児向けおはなし会などを協働で実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	支援団体数		5団体	7団体	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	市民団体への支援				
	事業内容の検証		検証を踏まえた新たな事業の実施		
年度目標	6団体	6団体	6団体	7団体	7団体

<2023年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	・市民との協働事業として「3・4歳児あつまれ!」「紙芝居・大人の時間」「時代小説読み語り」「こりあんの森おはなし会」の4件を実施しました。 ・学生との協働事業として、玉川大学及び町田デザイン&建築専門学校の学生との中学生向け文学ガイド「町田ブンガク」の作成と出張授業の実施、桜美林大学とのイベント「合唱物語 沈黙の声」の実施、町田デザイン&建築専門学校との「ことばらんどショートショートコンクール受賞作品展」の実施、町田総合高校との夏季展関連イベントの4件を実施しました。
課題	・市民との協働事業では、担い手の減少や高齢化の傾向がみられ、将来的に市民の文学活動が衰退する恐れがあります。 ・学生との協働事業では、学校のニーズとの合致、教員の協力が必須です。
今後の取組の方向性	・活動を継続できるよう市民主導による担い手確保の方法を検討します。 ・学校のニーズに合う支援の方法を検討します。

■取組5-1 支援が必要な人への学習機会の提供【◇】	生涯学習センター
----------------------------	----------

事業概要	外国人居住者、障がい者、ひきこもり当事者など文字の読み書きや基礎学力の学び直しを求める人の学習機会を保障するため、学習に関するニーズ調査を行い関係機関と連携して学習機会を提供します。				
これまでの取組	障がい者を対象とした「障がい者青年学級」、ひきこもり当事者を対象とした居場所事業などを実施しています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	①多文化共生*に関する学習事業数	1事業	3事業		
	②社会的困難を抱えた人への学習事業数	3事業	5事業		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	各種学習事業の実施 関係機関への働きかけ				
	参加者アンケート等によるニーズ調査・ 事業内容への反映			市民意識 調査での ニーズ 把握	新たな 事業の 実施
年度目標 (指標①)	1事業	2事業	2事業	3事業	3事業
年度目標 (指標②)	3事業	4事業	4事業	5事業	5事業

*多文化共生：国籍や民族などが異なる人々が、文化的な違いを認め合い、対等な関係を築きながら、ともに生きていくこと。

＜2023年度の事業実績＞

達成状況 (指標①)	B 目標を達成した
取組状況 (指標①)	国際交流センター共催事業で「まちだdeトークプラザ2-日本で働く外国人-」を実施し、多文化共生への理解を深めました。また、平和祈念事業で「親子で体験！だれもが楽しめるパラスポーツイベント～ボッチャとユニカールを体験しよう～」を実施し、パラスポーツへの理解促進の機会を創出しました。さらに、市民提案型事業では、2025年に東京で開催予定の夏季デフリンピック競技大会を見据え、「デフリンピックがやってくる！～国際手話を学ぼう～」を実施しました。
達成状況 (指標②)	A 計画以上に目標を達成した
取組状況 (指標②)	・「障がい者青年学級」事業を継続し、より多くの障がい者の方が学び続けられるように、事業の再構築に向けた検討を行い、再構築の方向性を決定しました。検討にあたっては、事業関係者や障がい当事者の方にアンケート調査等を行い、生涯学習センター運営協議会で意見聴取しました。 ・学力の基本を身につけたい方向けの無料学習会「まなびテラス」を実施しました。 ・市民提案型事業で、社会的困難を抱えやすい高齢者への支援を学習する「さりげない見守り活動/みまもりサポーター養成連続講座」を実施しました。 ・障がいのある人のための学習講座「車いすや義手でも、できること」を実施したほか、市民団体との共催で「車いす街歩きイベント」を実施しました。 ・まちだ市民大学HATS福祉講座では、前期に認知症サポーター養成講座を行ったほか、車いす使用者の体験談を聞き、実際に車いす体験をする講座を実施しました。また、後期は若年性認知症や聴覚障がい者について学ぶ講座を実施しました。
課題	・事業の実施にあたっては、引き続き関係機関と連携していく必要があります。 ・学ぶことに支援が必要な方の学習機会を充実させていく必要があります。
今後の取組の方向性	生涯学習センター運営見直し実行計画に基づき、誰もが公平に学べる環境を整備するための再構築を行います。

■取組5-2 本と出会う場所の創出【◇】	図書館
----------------------	-----

事業概要	町田市には大学図書館や地域文庫、まちライブラリー*など本に触れることができる施設が各地域にあります。これらの施設と図書館が連携して読書活動を推進する取組を進めるとともに、これらの施設の情報を集約した読書マップを作成します。				
これまでの取組	市民が利用可能な大学図書館やおはなし会を実施している団体の情報を収集し、図書館ホームページに掲載しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①読書活動推進にかかる連携施設数		20か所	25か所	
	②読書マップの作成		未実施	作成・公開（2020年度）	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	図書の貸出・閲覧やおはなし会がある市民利用施設との連携推進				
	本に触れることができる施設の把握	マップの作成・公開		マップの更新	
年度目標（指標①）	21か所	22か所	23か所	24か所	25か所
年度目標（指標②）	施設の把握	作成・公開	検証	更新	検証

*まちライブラリー：47ページのコラム「まちライブラリーとは？」を参照。

＜2023年度の事業実績＞

達成状況（指標①）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標①）	・読書活動推進にかかる連携について、関係団体と協力してイベントを実施したほか、移動図書館のイベント会場や保育園・幼稚園などへの出張運行により本と出会う機会を創出することができたため、達成状況をCとしました。 ・「読書活動推進にかかる連携施設数」は増減がありませんでした。 ・読書活動を推進している連携施設や読書普及活動に取り組んでいる個人や団体と協力し、市民が本と気軽に触れ合えるイベントを開催しました。2023年9月30日、10月1日に開催された「2023鶴川団地秋まつり」において、図書コミュニティ施設運営団体設立準備会（2025年度に鶴川図書館が民設民営の施設へ転換予定）とともにイベントを実施しました。 ・イベント会場や保育園・幼稚園など子どもの集まる場所7ヶ所へ、移動図書館を計56回出張運行し、資料の貸出・閲覧やおはなし会を行いました。日頃図書館を利用していない方も含め、本と出会う場所を創出しました。
達成状況（指標②）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標②）	・読書マップについて、さらに内容の充実を図るため、今後のあり方について検討しました。
課題	・「読書活動推進にかかる連携施設数」については、現在の連携施設との関係性を深めることに加えて、連携施設をさらに拡充していく必要があります。
今後の取組の方向性	・読書活動を推進している連携施設や読書普及活動に取り組んでいる個人や団体と協力したイベントを、今後も継続します。 ・地域では様々な読書普及活動をしている団体や施設があるため、市立図書館と連携して読書普及活動を進められるよう取り組みます。

■取組5-3 文化財の保存と活用環境の整備【◇】	文化財係
--------------------------	------

事業概要	発掘調査や環境整備によって、牢場遺跡・稲荷山遺跡・八幡平遺跡からなる高ヶ坂石器時代遺跡を維持保存できるようにし、文化財の魅力をより広く伝えられるよう積極的に公開活用します。				
これまでの取組	遺跡整備工事、現場公開を各年度実施しました。 2016年度：稲荷山遺跡工事・公開、八幡平遺跡工事 2017年度：牢場遺跡工事・公開 2018年度：牢場遺跡史跡公園用地買収、牢場遺跡工事、八幡平遺跡工事				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	高ヶ坂石器時代遺跡整備進捗	整備着手	八幡平遺跡整備工事、牢場遺跡買収地整備工事、ガイダンス施設基本設計		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	八幡平遺跡整備工事	八幡平遺跡整備工事、牢場遺跡買収地設計	八幡平遺跡公開・見学会実施	高ヶ坂石器時代遺跡見学会実施	八幡平遺跡整備工事、牢場遺跡買収地整備工事、ガイダンス施設
年度目標	八幡平遺跡整備工事	牢場遺跡設計 八幡平遺跡整備	八幡平遺跡公開・見学会実施	牢場遺跡整備 ガイダンス施設基本計画	ガイダンス施設基本設計、展示基本設計

＜2023年度の事業実績＞

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	・2018年度に取得した牢場遺跡内の土地の整備工事を実施・完了し、2024年2月から公開を開始しました。当初の目標を達成したため、B評価としました。 ・整備状況をホームページで紹介しました。 ・整備工事完了後に高ヶ坂遺跡見学会（まち歴第10回「高ヶ坂石器時代遺跡～山本亀三が見た町田の遺跡～」）を実施しました。
課題	・未整備箇所の整備が必要です。 ・文化財保護に対する市民の理解を得るため、積極的な情報発信等により遺跡の認知度を高める必要があります。
今後の取組の方向性	・八幡平遺跡の整備工事（植栽等）を実施します。 ・整備工事完了後に遺跡を活用したイベントを実施します。 ・高ヶ坂石器時代遺跡の整備工事完了に向け整備報告書を作成します。 ・2025年度には「高ヶ坂石器時代遺跡発見100周年」のイベントを実施するなど、遺跡の魅力を積極的に発信していきます。

事業概要	所在調査・探索により発見された史料、寄贈・寄託等の申し出がある市域の各家等に残る史料を整理して、半永久的な学習・研究資源とするために保存環境を整えます。また、整理した史料は、利用者の希望に応え、展示や刊行物に還元できるよう目録を作成します。				
これまでの取組	市民ボランティアや大学等との協働により史料整理を行い、新たな史料の寄贈・寄託を受け入れながら仮目録の作成を進めています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	①史料整理数（累計）	42,000点	67,000点		
	②目録作成点数	0件	3件目着手		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	史料の寄贈・寄託の受入れ、史料整理				
	▶ 史料目録作成（1件目）		▶ 史料目録作成（2件目）		▶ 史料目録作成（3件目）
年度目標（指標①）	47,000点	52,000点	57,000点	62,000点	67,000点
年度目標（指標②）	1件目 作成作業	1件目 作成完了	2件目 作成作業	2件目 作成完了	3件目 作成作業

＜2023年度の事業実績＞

達成状況（指標①）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標①）	- 市民ボランティアや大学等との協働作業などで史料整理を進め、計約3,000点の史料整理を行い、計約63,500点完了しました。学校再編に伴う学校資料の整理を優先させる必要があったため、目標値に達することができませんでした。 「浪江虔関係史料」、「野津田町・河井家文書」、「小川・細野家文書」、「相原・青木家文書」等の整理作業を進めています。
達成状況（指標②）	D 目標に達しなかった
取組状況（指標②）	史料目録の作成については、目録を公表する方法を紙の刊行物からインターネット上のデジタルコンテンツとして発表する方法に変更しました。広く活用できるように公表の準備を進めています。
課題	今後も、市史編さん事業を見据え市域の重要史料の整理に取り組む必要があります。
今後の取組の方向性	重要史料群（「野津田町・河井家文書」、「小川・細野家文書」、「小野路町・細野家文書」、「相原町・青木家文書」）の整理を優先的にを行います。

■取組5-5 図書館利用者の利便性の向上	図書館
----------------------	-----

事業概要	インターネットやスマートフォンの普及、書籍のデジタル化により市民の読書スタイルは多様化しています。図書館に来館しなくても市民が読書をする機会が増えるよう、電子書籍の導入を目指します。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	電子書籍サービスの導入		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	先進事例の研究調査・補助金の調査・民間活手法導入検討		導入のための仕様作成と実施に向けた準備		実施
年度目標	調査	検討	仕様作成	実施準備	実施

<2023年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	・2023年度も電子書籍サービスを継続して提供しました。2023年度末の蔵書数は18,763点、2023年度の貸出点数は104,297点でした。 ・教育広報紙「まちだの教育」への特集記事の掲載や、市民センターまつりでブース出店、飲食店などで名刺サイズ広告の配布、図書館で電子書籍サービスの使い方講座の実施など、電子書籍サービスの各種PRを実施しました。 ・毎月新刊資料案内および特集を組んで電子書籍コンテンツの紹介を行い、継続して利用いただけたよう工夫しました。 ・2023年9月から市内の公立小・中学校の児童・生徒全員に対し、電子書籍サービスIDを付与しました。
課題	・図書館サービスのひとつとして電子書籍サービスの認知度を上げる必要があります。 ・電子書籍コンテンツが紙の図書と比較して高額かつ点数が少ないため、継続して利用したいと思っていただくよう工夫する必要があります。
今後の取組の方向性	・引き続き様々な場面でPRを行うことで、電子書籍サービスを市民に広く周知します。 ・常に魅力的な蔵書構成にするような選書を行い、新刊案内や特集を定期的に公開することで、電子書籍サービスの利用を促進します。

事業概要	現在、紙の媒体で管理されている地域資料は、地域活動を行っていく上で重要な資料です。これらを積極的に活用できるよう、これまで蓄積してきた地域資料のデジタルアーカイブ*化を進めます。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	取組5-6 地域資料の活用の推進		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	地域資料 活用のため の計画作成	デジタル化 対象資料の 整理	イメージデータの作成		段階的な 公開
年度目標	検討	整理	データ作成	データ作成	実施

*デジタルアーカイブ：電子図書館をはじめ、作品、文化財その他の情報をデジタル化して収集・保存・公開する活動や場の総称。

<2023年度の事業実績>

達成状況	C おおむね目標を達成した
取組状況	- 電子書籍サービスサイトで公開させるための手法を調査しました。 - 電子書籍サービスサイトにおいて、地域資料を1点公開しました。 - 本格的な導入に向け国の補助金「デジタル田園都市国家構想交付金」に応募し、内示を受けました。
課題	2024年度中の公開に向け、各種準備を進める必要があります。
今後の取組の方向性	2024年度中に電子書籍サービスサイトで公開できるよう各種準備を進めてまいります。

■取組5-7 市民のニーズに合った図書館事業の実施	図書館
---------------------------	-----

事業概要	図書館全館で利用者アンケート調査を実施し、図書館利用者のニーズを把握して、図書館サービスの改善に役立てます。				
これまでの取組	図書館全館での利用者アンケートを2009年度から3回実施しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	図書館利用者アンケートの実施		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	アンケート 実施準備	アンケート 実施と公表	事業の評価と改善		次期 アンケート 実施準備
年度目標	検討	実施	活用	活用	検討

<2023年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	- 指定管理者制度の効果を検証するために、図書館全館で利用者アンケートを実施しました。 - これまでのアンケート調査で市民ニーズが高かった次のサービスを実施しました。 ①9月から市内小・中学校の児童・生徒に電子書籍サービスの利用IDを一斉付与しました。学校で使いやすい同時使用が可能なコンテンツなどを揃え、新たな読書機会の提供を行いました。 ②5月から久美堂本町田店での予約資料受渡しサービスを開始しました。
課題	- 引き続き、指定管理者による運営状況の評価が必要です。 - 利用者アンケート結果から市民ニーズを検証し、図書館利用に結び付ける必要があります。 - 図書館利用者だけでなく、図書館を利用していない市民のニーズも把握する必要があります。
今後の取組の方向性	- 指定管理者による運営の効果検証に基づき、今後の運営体制を検討します。 - 検証結果に基づき、図書館利用の拡大につながる事業展開を検討します。 - 紙ベースのアンケートだけでなく、QRコードからアクセスできるアンケートなど適切な方法を検討します。

■取組5-8 町田の文学の継承	文学館
-----------------	-----

事業概要	継続的に収集してきた町田市の文学的財産である町田ゆかりの作家の貴重な資料を、適切に整理・保存・研究し、研究の成果を広く市民が利用できるよう公開します。また、これまでに蓄積した情報や資料を継承していくための図録や目録等を作成します。				
これまでの取組	町田ゆかりの作家の資料を収集・保存・研究し、公開しています。毎年、展覧会の成果をまとめた図録を作成しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①貴重資料の公開回数		未実施	年4回	
	②図録や目録等の作成件数		1件	2件	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	公開（試行） 調査	検証・調査	公開・調査		
	図録等の刊行（年1件）				
			目録等の 企画・検討	図録等の刊行（年2件）	
年度目標 （指標①）	公開（試行）	検証	公開（年2回）	公開（年2回）	公開（年4回）
年度目標 （指標②）	1件	1件	1件	2件	2件

<2023年度の事業実績>

達成状況 （指標①）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況 （指標①）	収蔵資料の公開を目的としたミニ展示として、松田幸雄典、中村雨紅展、山村昌明展、森村誠一展、わたなべゆういち展、八木重吉展を実施しました。
達成状況 （指標②）	B 目標を達成した
取組状況 （指標②）	遠藤周作展の展示内容をまとめた小冊子を作成し観覧者に無料で配布しました。町田ゆかりの作家や町田が登場する作品を紹介する文学ガイド「町田ブンガク」を作成しました。「ことばらんどショートショートコンクール2022」の受賞作品をまとめた作品集を作成するとともにホームページで公開しました。
課題	公開した内容をPRし広く市民に知ってもらうことが重要です。
今後の取組の 方向性	「町田ブンガク」を活用した出張授業を実施し若者へ町田の文学の継承を行うほか、「ことばらんどショートショートコンクール」を継続し新たな町田の文学を創造していきます。

■取組5-9 文学財産の保存	文学館
----------------	-----

事業概要	町田市の文学的財産である町田ゆかりの作家の原稿、色紙、絵画等の特別資料を後世に残し、市民に継承できるよう適切に保存します。				
これまでの取組	町田ゆかりの作家の貴重図書や貴重雑誌、特別資料（原稿、色紙、絵画等）を収集し、整理、登録しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	特別資料の登録数（累計）		575点	1,450点	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	特別資料の収集				
	特別資料の整理・登録			整理計画の作成	特別資料の整理・登録
		整理計画の作成	特別資料の整理・登録		
年度目標	850点	1,000点	1,150点	1,300点	1,450点

<2023年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	2020年度の休館中に資料整理に注力したことにより登録件数は1,964点となりました。
課題	継続的に資料整理・登録を行う必要があります。
今後の取組の方向性	継続的に資料整理・登録を行います。

5 2019～2023年度の総括

施策1 家庭教育を支える環境を整備する

取組	活動指標			達成状況	評価結果				
	指標	現状値 (2017年 度)	目標値		2019	2020	2021	2022	2023
取組1-1 保護者向けの学習機 会の充実	①まなびのひろば延べ参加者数	698人	880人	204人（生涯学習センター運営見直し実行計画に基づき、事業の見直しを行ったため。）	D	F	D	D	D
	②家庭教育講座延べ参加者数	459人	570人	480人（別に家庭教育のオンライン講座を新規実施し、783回の視聴回数がありました。）	B	F	D	C	C
取組1-2 家庭教育支援の担い手育成・活動支援	①担い手育成事業修了者数（累計）	31人	164人	151人	B	B	C	C	C
	②修了者が企画した学習事業数	3事業	5事業	5事業	B	D	B	B	B
取組1-3 保育室を利用した家庭教育支援事業の促進	保育室の年間施設利用回数	280回	380回	227回（生涯学習センター運営見直し実行計画に基づき、事業の見直しを行ったため。）	D	D	D	D	D

取組	活動指標			達成状況	評価結果				
	指標	現状値 (2017年度)	目標値		2019	2020	2021	2022	2023
取組1-4 乳幼児から小学生とその保護者を対象とした事業の充実	乳幼児から小学生とその保護者を対象とした事業数	7事業	9事業	9事業	B	D	D	B	B

< 施策の総評 >

計画期間中に、当初想定していなかった新型コロナウイルス感染症の流行があり、市民の学習活動も自粛が続いたことから、事業数は達成できたものの、述べ参加者数を目標値とした取組では伸び悩みが見られました。また、生涯学習センターでは、2021年度から施設のあり方見直しに着手し、実施事業の見直しを行ったため、一部事業については、事業数及び参加者数が減少しています。しかしながら、こうした状況下でも講座のオンライン化に取り組むなど、学習機会を減らさないよう工夫し、一定の成果を上げた取組もありました。 保育室の利用についても、2020年度に151回にまで減少し、以降、利用回数は回復傾向にあります。コロナ前の水準には戻っていません。 少子化傾向もあり、子どもや親子を対象にした事業の参加者は減少傾向にあります。今後は、子育て支援事業との事業整理や事業形態の見直しなどをより一層進める必要があります。
--

施策2 学びのきっかけとなる機会を提供する

取組	活動指標			達成状況	評価結果				
	指標	現状値 (2017年度)	目標値		2019	2020	2021	2022	2023
取組2-1 学習情報の発信力の強化	①スマートフォン版「生涯学習NAVI」の利用促進に向けた取組の実施	未実施	実施 (2020年度)	町田市HPや民間電子書籍閲覧サイトへの掲載を実施しました。	A	C	C	C	B

取組	活動指標			達成状況	評価結果				
	指標	現状値 (2017年度)	目標値		2019	2020	2021	2022	2023
取組2-1 学習情報の 発信力の強化	②新たな情報 発信媒体の活用	未実施	実施 (2021年度)	関係機関や民間の 広報媒体への記事 の掲載やSNSを活用した周知を行いました。	A	A	C	C	B
取組2-2 歴史・文化 資源等を活用した出張 事業の推進	出張事業（展示・イベント・講座等） の実施件数	28件	40件	86件	C	C	B	A	A
取組2-3 子ども読書 活動の推進	①第四次町田市子ども読書活動 推進計画の策	第三次計画 に基づく事業の実施	策定完了 (2019年度)	2019年度に策定 しました。	B	B	B	B	B
	②外国語の絵 本・児童書の 蔵書数	3,966冊	6,500冊	8,000冊	A	A	A	A	A
取組2-4 学校図書館 との連携強化	①学校図書館 支援貸出利用 校数	35校	42校	23校 2023年度新たに 電子書籍の提供を 全公立小中学校に行いました。	D	D	D	D	C

取組	活動指標			達成状況	評価結果				
	指標	現状値 (2017年度)	目標値		2019	2020	2021	2022	2023
取組2-4 学校図書館との連携強化	②学校図書館支援貸出数	3,768冊	4,500冊	図書 2,188冊 2023年度新たに電子書籍の提供を開始し、65,514点を貸出しました。	D	D	D	D	C
取組2-5 生涯学習施設の利用促進	①連携して行うPR活動件数	4件	10件	73件	A	A	A	A	A
	②SNS発信数	219回	800回	1,195回	A	A	A	A	A
取組2-6 読書普及事業の充実	18歳以下の方の利用登録につながる事業数	2事業	4事業	11事業	A	A	A	A	A
取組2-7 シニア世代向け事業の充実	シニア世代を対象とした事業数	未実施	2事業	5事業	A	B	A	A	A
取組2-8 障がい者サービスの充実	通常の活字による読書が困難な人を対象とした事業数	1事業	3事業	3事業	A	B	B	B	B
取組2-9 図書館資料による情報提供機会の充実	他部署や他機関と連携した「本の特集コーナー」の実施数	19回	33回	87回	A	A	A	A	A

取組	活動指標			達成状況	評価結果				
	指標	現状値 (2017年度)	目標値		2019	2020	2021	2022	2023
取組2-10 「町田ゆかりの作家」紹介事業の充実	「町田の文学ガイド」作成	未実施	作成・配布	文学ガイドを作成し、出張事業を行いました。	B	B	B	C	B

< 施策の総評 >

新型コロナウイルス感染症の流行の影響を受けながらも、計画や作成物については予定通り作成できました。学びのきっかけとなる事業実施数についても、計画当初は新型コロナウイルス感染症の影響で想定どおりに実施できない事業もありましたが、計画後半には影響が薄らいだこともあり、最終的には、概ね予定以上の事業数を実施できました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、デジタル技術の活用が一気に進んだ面があり、SNSによる情報発信や電子書籍の活用など計画当初の想定を超える成果が出た取組もありました。

学校図書館との連携強化については、アンケート調査やヒアリングを行い、「テーマ別貸出セット」の導入などサービスの改善を行いました。利用校数は目標に届きませんでした。貸出冊数についても目標には届きませんでした。調査結果を踏まえて2023年度から導入した小中学生向けの電子書籍提供サービスでは、65,514点の利用がありました。

引き続き関係機関との連携を図りつつ、事業や情報提供のデジタル化を更に進め、学びのきっかけとなる機会の提供を充実させていく必要があります。

施策3 学習を”広げる・深める”を支援する

取組	活動指標			達成状況	評価結果				
	指標	現状値 (2017年度)	目標値		2019	2020	2021	2022	2023
取組3-1 地域の課題解決に向けた学習支援	連携事業を実施した地区協議会の数 (累計)	1地区	5地区	3地区	D	D	B	B	D

取組	活動指標			達成状況	評価結果				
	指標	現状値 (2017年度)	目標値		2019	2020	2021	2022	2023
取組3-2 町田の歴史情報の提供	町田デジタルミュージアム構築の進捗	未実施	システム構築完了、公開 (2022年度)	2022年度公開。 2023年度は553,360件のアクセスがありました。	B	B	B	A	A
取組3-3 「文学の扉」事業の推進	①展覧会を通じ、新たな興味や学習意欲につながった人の割合（観覧者アンケート）	84%	90%	95.6%	A	C	A	B	A
	②中高生から20歳代を対象とした事業数	1事業	3事業	4事業	B	B	A	D	A
取組3-4 文化財の維持・保護・復旧の推進	下三輪玉田谷戸横穴墓群復旧整備	現況測量完了	整備完了・公開	崩落の進行抑制のための修繕を行いました。	C	E	E	E	E
取組3-5 文化財の公開・活用の充実	文化財の公開・活用イベント件数	4件	6件	7件	B	B	D	B	A
取組3-6 展示事業の充実	資料館への満足度（来館者アンケート）	77%	85%	99%	D	D	A	B	B

取組	活動指標			達成状況	評価結果				
	指標	現状値 (2017年度)	目標値		2019	2020	2021	2022	2023
取組3-7 講座・講演 会事業の充 実	講座・講演会 等の実施回数	60回	70回	79回	B	D	A	D	B
取組3-8 レファレン スサービスの 充実	レファレンス 事例の公開件 数	162件	250件	304件	B	B	B	B	B

< 施策の総評 >

各事業とも概ね、目標としてた件数以上の事業を実施でき、自由民権資料館や町田市民文学館の展示についても多くの方に満足いただきました。2022年度に公開を開始した町田デジタルミュージアムについても、開設以来、想定を上回るアクセスをいただいています。

地区協議会との連携は3事業に留まり、目標には達しませんでした。町内会、自治会など地区協議会以外の地域団体との連携も行っており、これらを含めると目標を超える事業数を実施しています。

下三輪玉田谷戸横穴墓群の復旧整備については、損傷防止のための修繕に留まっていますが、こちらについても町田デジタルミュージアムで3Dパノラマビュー画像を公開しています。

今後も市民が継続的に学習を深められるよう、多様な学習支援につながる事業を継続する必要があります。

施策4 学習成果を活かす機会を充実する

取組	活動指標			達成状況	評価結果				
	指標	現状値 (2017年度)	目標値		2019	2020	2021	2022	2023
取組4-1 市民提案型 事業の推進	市民提案型事 業「まちチャ レ」で 実施する講座 数	5講座	8講座	7講座（このほか 選定後辞退した講 座が1講座ありま す）	B	B	B	B	B

取組	活動指標			達成状況	評価結果				
	指標	現状値 (2017年度)	目標値		2019	2020	2021	2022	2023
取組4-2 協働による 研究・発表 の推進	①研究成果物の刊行に向けた事業数	6事業	8事業	8事業	B	C	B	B	B
	②研究発表会等の実施回数	未実施	毎年度実施	2021年度以降、 毎年度実施	B	E	B	B	B
取組4-3 地域で活動 するボランティアの養成・支援	①地域で活動するボランティア向け講座の開催回数	1回	3回	5回	A	B	B	B	C
	②地域で活動するボランティア向け講座への参加者数	26人	90人	73人	A	B	B	B	C
取組4-4 学習成果の 発表機会の 支援	①生涯学習センターまつりへの参加団体数 (来館者数)	53団体 (2,167人)	58団体 (2,500人)	38団体 (1,200人)	C	C	C	C	D
	②学生活動報告会への参加団体数	9団体	11団体	11団体	D	C	B	B	B

取組	活動指標			達成状況	評価結果				
	指標	現状値 (2017年度)	目標値		2019	2020	2021	2022	2023
取組4-5 生涯学習ボランティアバンク事業の推進	生涯学習ボランティアバンクの利用件数	16件	30件	7件	B	D	D	D	D
取組4-6 障がい者の学習成果を発表する場の充実	障がいに応じた学習成果の発表の場	未実施	実施 (2021年度)	2021年度以降、 毎年度実施	B	B	A	A	A
取組4-7 図書館運営の地域協働化の促進	ボランティア活動分野の拡大	5分野	7分野	6分野	B	D	B	C	C
取組4-8 市民の文学活動への支援	支援団体数	5団体	7団体	8団体	B	D	D	D	A

< 施策の総評 >

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、市民の学習活動も縮小しており、特に市民団体の学習活動については、未だ個人の学習活動ほど復調を見せていない状況です。こうした状況下で、学習成果を活かすための講座事業数は概ね予定通り開催できたものの、参加者数や参加団体数を指標とした取組については、目標値に達しないものも見受けられました。

コロナ禍を経て、これまで活動してきた団体やボランティアの担い手が減少、または高齢化してきていることもあり、新型コロナウイルス感染症の流行前後で市民活動にも変化が生じたことを踏まえた事業の見直しを進めていく必要があります。

施策5 学習を支える環境づくりを進める

取組	活動指標			達成状況	評価結果				
	指標	現状値 (2017年度)	目標値		2019	2020	2021	2022	2023
取組5-1 支援が必要な人への学習機会の提供	①多文化共生*に関する学習事業数	1事業	3事業	3事業	B	A	B	A	B
	②社会的困難を抱えた人への学習事業数	3事業	5事業	8事業	B	B	B	B	A
取組5-2 本と出会う場所の創出	①読書活動推進にかかる連携施設数	20か所	25か所	23か所。他に協 カイベントや移動 図書館車の出張運 航を実施しまし た。	C	A	B	C	C
	②読書マップの作成	未実施	作成・公開 (2020年 度)	2021年3月に作成 し、図書館HPで 公開しています。	C	B	B	B	C
取組5-3 文化財の保存と活用環境の整備	高ヶ坂石器時代遺跡整備進捗	整備着手	八幡平遺跡 整備工事、 牢場遺跡買 収地整備工 事、ガイド ンス施設基 本設計	整備工事を完了 し、2024年2月か ら公開を開始して います。	B	D	B	B	B

取組	活動指標			達成状況	評価結果				
	指標	現状値 (2017年度)	目標値		2019	2020	2021	2022	2023
取組5-4 歴史・文化 資源の調査・研究・ 保存	①史料整理数 (累計)	42,000点	67,000点	63,500点	A	C	C	B	C
	②目録作成点数	0件	3件目着手	目録の作成からインターネットのデジタルコンテンツの公開に手法を変更しました。	B	C	D	D	D
取組5-5 図書館利用 者の利便性 の向上	電子書籍サービスの導入	未実施	実施	2022年10月から電子書籍サービスを導入し、2023年度末に蔵書数は18,763点、貸出数は104,297点になりました。	C	C	C	A	A
取組5-6 地域資料の 活用の推進	取組5-6 地域 資料の活用の 推進	未実施	実施	電子書籍サービスサイトにおいて、地域資料の公開を開始しました。	D	D	D	D	C
取組5-7 市民のニーズに合った 図書館事業 の実施	図書館利用者 アンケートの 実施	未実施	実施	期間中、複数のアンケートを実施し、要望の多かった電子書籍の導入や民間書店での資料受け渡しを開始しました。	A	A	B	A	B

取組	活動指標			達成状況	評価結果				
	指標	現状値 (2017年度)	目標値		2019	2020	2021	2022	2023
取組5-8 町田の文学の継承	①貴重資料の公開回数	未実施	年4回	年6回	A	A	B	B	A
	②図録や目録等の作成件数	1件	2件	3件	B	A	D	D	B
取組5-9 文学財産の保存	特別資料の登録数（累計）	575点	1,450点	1,964点	A	A	C	B	B

< 施策の総評 >

支援が必要な人への学習機会の提供は予定通り実施できました。また、図書資料や歴史史料の公開についても概ね、予定通り公開できました。

新型コロナウイルスの流行を経て、世の中のデジタル化が加速しましたが、町田市においても電子書籍サービスや町田デジタルミュージアムなどデジタルコンテンツを活用した資料・史料の提供が進みました。こうした流れを受け、計画当初は紙での作成を予定していた史料目録の作成についてもデジタルコンテンツとしての公開に手法を変更しています。

今後も、市民の学習環境を整備するため、様々な手法を用いて取組を進める必要があります。